

令和元年度 学生による「授業改善のためのアンケート」について〈大学版〉

※【昨年度との変更点】

- ・実施結果報告書および分析結果を大学 Web サイトの情報公表ページに公開する。
- ・表彰ルールにおいて設問 9 を除き、14 つの設問から 9 つの項目を点数化する
- ・表彰対象は、履修者に対する回答者の割合が言語科目は 60%以上、講義科目履修者 100 名未満は 50%以上、講義科目履修者 100 名以上は 30%以上を基準とする。
- ・3 つのカテゴリー別の顕彰用集計結果を各学科主任に配布し、学科が行う FD 活動の一環として改善に役立てる。
- ・表彰された教員に FD 研修として学内で発表の機会を設ける。

(平成 31 年 3 月教学マネジメント委員会決定)

【実施の趣旨】

近年の大学教育に関し、学生が十分な知識・理解を身につけることなく卒業し、社会に出ていることについて、国や産業界から批判の声があがっている。

そのような状況の中、文科省中教審の答申等において、学生の知識・理解の定着を促すための取組みとして、アクティブ・ラーニングの推進が挙げられている。

これまでの本学の教育においても、演習科目や実験・実習科目のように、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業は存在しているが、授業科目の大多数を占める講義科目については、アクティブ・ラーニングの導入が進んでいるとはいえ、いまだに多くの科目において知識伝達型に偏った教育がなされている。

また一方では、グローバル化の進展に伴い、今後ますます語学教育の重要性が高まっていく中で、本学においてもすでに英語および初級外国語科目が多数配置されていることから、それらについてもこれまでより一層の内容の強化が求められる。

以上を踏まえ、本学においてはとりわけ講義科目と言語科目について改善・充実が急務と考え、それを支援するための取組みの一つとして、授業改善のためのアンケートを実施することとする。

アンケートの結果は集計の上、教員への顕彰やフィードバックを行うことにより、今後の授業改善を促すとともに、学生の授業選択の参考としても活用されることを期待する。

【実施要領】

1. 実施方法

- ・非常勤講師を含む全教員について、前期および後期それぞれ 1 科目実施。
- ・各期の実施期間はそれぞれ 2 週間とする。

2. 実施科目の選定

- ・実施対象科目は実施の趣旨を鑑み、講義科目のみとする。ただし、言語科目は講義科目として取り扱う。
- ・リレー講義やオムニバス講義等、複数教員による授業実施科目は実施対象外とする。
- ・集中講義科目は実施対象外とする。
- ・履修者数が 10 名未満の科目は実施対象外とする。
- ・前期と後期で同一科目を担当する場合はいずれか一方のみを実施する。なお、前期と後期で同一科目名の後ろに「～1」「～2」や「～A」「～B」を付して科目が分けられている場合は別科目とみなし、それぞれ実施する。
- ・毎回の実施科目は、原則として教学マネジメント委員会 FD 部会が選定する。
- ・実施科目選定にあたっては、各授業科目が少なくとも 2 年に 1 度はアンケートが行われるよう留意する。

3. 実施免除

- ・アンケート実施期間中に実施対象科目の担当がない場合は実施を免除する。
- ・アンケート実施期間中、対象科目を休講する場合、他科目と振替可能であれば他科目で実施することとし、振替不可能な場合は実施を免除する。
- ・アンケートを実施期間中、学生が欠席し実施できなかった場合は実施を免除する。

4. 顕彰

- ・アンケート項目の一部を点数化し、得点の高かった教員を表彰する。表彰ルールは別に定める。
- ・表彰は学長名で表彰状を贈呈し、学内専用の Web サイトで周知する。

- ・表彰は、前期と後期にそれぞれ行う。

5. 集計結果報告

- ・従来通り、集計結果を担当教員にフィードバックし、所見書の提出を求めるとともに、学内専用の Web サイトで集計結果と提出された所見書を公表する。

6. 情報公表

- ・実施結果報告書および分析結果を大学 Web サイトの情報公表ページに公開する。

以上

●表彰ルール〈大学版〉

- アンケート用紙の項目について、全 14 つの設問の内、下記 *印の 9 つの設問を点数化対象とする。自己評価 (1. 2. 3)、授業の進め方 (9)、授業環境 (13) を点数化対象外とする。

	設問	
自己評価	1	この授業によく出席していますか？
	2	この授業に毎回平均どれくらい、この授業の予習復習や関連する内容についての自己学習を行っていますか？ 5:2 時間以上 4:1~2 時間 3:30 分~1 時間 2:30 分未満 1:取り組んでいない
	3	この授業中あなた自身は、私語や居眠りをせず集中して聞いていますか？
先生の取り組み姿勢	*4	先生は、開始時間と終了時間を守っていますか？
	*5	先生は、学生とコミュニケーションを取りながら授業をしていますか？
	*6	先生は、私語への注意など、授業を受けやすいように配慮していますか？
授業の進め方	*7	先生の説明は聞き取りやすいですか？
	*8	板書やプロジェクターの表示は見やすいですか？
	9	この授業の速さは適切ですか？ 5:速い 4:やや速い 3:適切 2:やや遅い 1:遅い
	*10	テキストや配布資料は、内容の理解に効果的ですか？
授業の内容	*11	授業の内容はシラバス通りに進められていますか？
	*12	この授業の成績評価の方法や基準が明らかにされていますか？
授業環境	13	この教室の設備や器具などは十分ですか？
授業満足度	*14	この授業は総合的に見て満足できる授業ですか？

- 前項で示した *印の 9 つの設問の回答を次の通り点数化する。
 そう思う(5 点)、ややそう思う(4 点)、どちらともいえない(3 点)、あまりそう思わない(2 点)そう思わない(1 点)
- 各科目において項目ごとの平均点を算出し、計 9 つの設問の合計点を得点とする。
- 項目ごとの平均点は小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位まで算出する。
- 未回答、誤記等による欠損データは「null」値に変換し、平均点の算出対象としない。
- 前項に基づき、次の 3 つのカテゴリーで得点を競い、それぞれ上位 5 名を表彰する。
 - ・講義科目 (履修者 100 名以上)
 - ・講義科目 (履修者 100 名未満)
 - ・言語科目
- 回答者が 9 名以下の科目はサンプル数が不十分のため表彰対象外とする。
- 得点が並んだ場合は、回答者数が多い方の科目を上位とする。
- 表彰対象は、履修者に対する回答者の割合が言語科目は 60%以上、講義科目履修者 100 名未満は 50%以上、講義科目履修者 100 名以上は 30%以上を基準とする。
- 全体の順位は公表しないが、個別の問い合わせには応じる。ただし、他の教員の順位等については回答しない。3 つのカテゴリー別の顕彰用集計結果を各学科主任に配布し、学科が行う FD 活動の一環として改善に役立てていただく。なお、問い合わせ先については、専任教員は、各学科主任、非常勤講師は、教学推進課とする。
1. 表彰された教員にコメントを書いてもらい Web サイトに掲載する。
2. 表彰された教員に FD 研修として学内で発表の機会を設けることができる。

令和元年度前期授業改善アンケート実施結果

1. 授業改善アンケートの概要

大阪産業大学で開講する授業を改善し、大学全体の教育の質を向上させることを目的として、平成 12 年度から学生に対する「授業改善のためのアンケート」を実施し、実施結果を担当教員にフィードバックするとともに大学の Web サイトに公表してきた。

平成 29 年 4 月より FD 活動に関する計画・立案は、教育支援センター委員会から教学マネジメント委員会の FD 部会へ移管され、所管部署が教育研究推進センターの教学推進課となった。本年も引き続き、令和元年度の授業改善アンケートの計画や実施要領については FD 部会で立案し、教学マネジメント委員会にて承認を受けて、授業改善アンケートを実施した。令和元年度では、昨年と同様の実施方法で、さらなる教育の質の向上に向けて実施することになった。

- 1) 大学だけでなく、大学院でもアンケートを実施する
- 2) 教学マネジメント委員会 FD 部会で実施対象科目を選定する
- 3) 顕彰制度(大学のみ)を導入する

なお、実施対象科目は、さらなる改善が必要であるという観点から講義科目と言語科目が選定された。また、昨年度との変更点は、下記の通りとなった。

- ・実施結果報告書および分析結果を大学 Web サイトの情報公表ページに公開する。
- ・表彰ルールにおいて設問 9 を除き、14 つの設問から 9 つの項目を点数化する
- ・表彰対象は、履修者に対する回答者の割合が言語科目は 60%以上、講義科目履修者 100 名未満は 50%以上、講義科目履修者 100 名以上は 30%以上を基準とする。
- ・3 つのカテゴリー別の顕彰用集計結果を各学科主任に配布し、学科が行う FD 活動の一環として改善に役立てる。
- ・表彰された教員に FD 研修として学内で発表の機会を設ける。

(平成 31 年 3 月教学マネジメント委員会決定)

2. 実施期間

前期：令和元年 6 月 18 日(火)～7 月 1 日(月)

実施期間については上述の 2 週間としたが、実施期間中に実施できなかった場合には期間外であってもアンケートを実施した。なお、期間外のアンケート実施者については、顕彰制度対象外とした。

3. 実施方法

大学でのアンケートはマークシート用紙による回答とし、択一式で無記名、14 の質問項目および自由記述とした。このような実施方法で、全学部の学生を対象として実施した。

4. 実施科目数、実施率（7 月 30 日現在）

1) 大学：専任・特任および非常勤の実施科目数、対象科目数の内訳

	専任・特任	非常勤	計
大学	167/167	278/281	445/448
実施率	100%	98.9%	99.3%

2) 大学：言語科目、講義科目別、専任・特任および非常勤の実施科目数、対象科目数の内訳

	専任・特任	非常勤	計
言語科目	10/10	117/118	127/128
講義科目	157/157	161/163	318/320
計	167/167	278/281	445/448
実施率	100%	98.9%	99.3%

3) 大学：履修者数に対する回答率

	実施科目の履修者数 (A)	回答者数 (B)	回答率 (B/A)%
言語科目	3,013	2,224	73.8%
講義科目	33,041	17,361	52.5%
計	36,054	19,585	54.3%

4) 自由記述について

平成 30 年度からアンケート用紙に自由記述欄を設けた。令和元年度は、科目別に画像データとして取り込んだものをポータルシステムのライブラリにアップロードし、各学部長(全学教育機構長を含む)および学科主任(全学教育機構の各センター長を含む)に公開し、各学科の FD 活動の一環として役立てることにしている。

5. 集計結果報告と公表

集計結果については、すべての担当教員にフィードバックした上で、所見書の提出を求め、さらに、大阪産業大学の Web サイトに集計結果と提出された所見書を公表することになっている。

6. 授業改善アンケートの結果

1) 実施科目数と実施率について

平成 29 年度前期より大学および大学院において、1 教員 1 科目のアンケートを本年度も引き続き厳格化して実施した。その結果、今回の令和元年度前期は大学 99.3%となった。大学における履修者に対するアンケート回答率は、言語科目が 73.8%であるのに対し、講義科目は 52.5%と約半数の学生のアンケートしか回収することができなかった。今後、授業改善を推進していくためにも、アンケート回収率の向上の方策を検討する必要があることがわかった。

2) 個別の質問について (大学)

大学においては 14 の質問項目とし、いずれの質問項目も「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の 5 段階の中から一つを選ぶ択一式とした。回答結果について、14 の質問項目毎に、教員雇用形態別、専任教員職責別、専任教員所属学科別 (全学教育機構の 3 センターを含む)、学生所属学科別、学年別、履修者数別及び科目区分別に整理した。5 段階の回答について、「そう思う」を 5 点、「そう思わない」を 1 点とし、5 点から 1 点の点数を配分して平均点を算出した。なお、詳細については別添の資料に示す。

教員雇用形態別では、専任・特任と非常勤との間ではすべての質問項目で顕著な差異は見られなかった。また、専任教員職責別においても教授・准教授・講師との間で、すべての質問項目において顕著な差異は見られなかった。学年別では Q1 の出席状況を問う質問以外で、学年が進むとおおよそ高い平均点となる傾向となった。履修者数別では、Q1 の出席状況を問う質問と、Q9 の授業の速さを問う質問以外で履修者数が 50 人以下の科目が高い平均点となった。また、科目区分別では、Q9 の授業の速さを問う質問以外で、外国語系科目が高い平均点となった。

次にそれぞれの質問項目における専任教員所属学科別及び学生所属学科別の結果の概要を示す。

Q1「この授業によく出席していますか？」

全体として高い平均点であったが、アンケート回答率が全体で 54.3%であるため、学生全体の出席状況を示していない。専任教員所属学科別では、4.53～4.74 点の平均点であり、都市創造工学科が 4.74 点、高等教育センターが 4.74 点と高い平均点であったのに対し、経営学科と環境理工学科が 4.53 点という平均点であった。一方、学生所属学科別では、4.38～4.73 点の平均点であり、情報システム学科が 4.73 点、都市創造工学科が 4.71 点と高い平均点であったのに対し、生活環境学科が 4.38 点、経済学科が 4.44 点

と低い平均点であった。

Q2「この授業の予習復習や関連する内容についての自己学習を行っていますか？」

この質問項目に対しての回答は、(5)2時間以上、(4)1～2時間未満、(3)30分～1時間未満、(2)30分未満、(1)取り組んでいないとした。専任教員所属学科別では、1.96～2.61点の平均点であり、情報システム学科が2.61点、国際学科が2.55点と高い平均点であったのに対し、教職教育センターが1.96点、環境理工学科が2.00点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、2.05～2.59点の平均点であり、国際経済学科が2.59点、国際学科が2.55点と高い平均点であったのに対し、環境理工学科が2.05点、生活環境学科が2.07点と低い平均点であった。

Q3「この授業中あなた自身は、私語や居眠りをせず集中して聞いていますか？」

専任教員所属学科別では、3.75～4.17点の平均点であり、経済学科が4.17点、交通機械工学科が4.15点と高い平均点であったのに対し、電子情報通信工学科が3.75点、テクニカルセンターが3.79点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.78～4.15点の平均点であり、国際学科が4.15点、経済学部(1, 2年)が4.13点と高い平均点であったのに対し、環境理工学科が3.78点、電子情報通信工学科が3.83点と低い平均点であった。

Q4「先生は開始時間と終了時間を守っていますか？」

専任教員所属学科別では、4.19～4.65点の平均点であり、教職教育センターが4.65点、国際学科が4.60点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が4.19点、機械工学科が4.28点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、4.36～4.59点の平均点であり、生活環境学科が4.59点、国際学科が4.56点と高い平均点であったのに対し、機械工学科が4.36点、経営学科と情報システム学科が4.37点と低い平均点であった。全学科の学生のほぼ85%以上の学生が「そう思う」「ややそう思う」に回答した。

Q5「先生は、学生とコミュニケーションを取りながら授業をしていますか？」

専任教員所属学科別では、3.09～4.52点の平均点であり、教職教育センターが4.52点、国際学科が4.18点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が3.09点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.45～4.31点の平均点であり、生活環境学科が4.31点、国際学科が4.26点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が3.45点と低い平均点であった。

Q6「先生は、私語への注意など、授業を受けやすいように配慮していますか？」

専任教員所属学科別では、3.77～4.43点の平均点であり、教職教育センターが4.43点、国際学科が4.39点と高い平均点であったのに対し、テクニカルセンターが3.77点、高等教育センターが3.90点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.79～4.39点の平均点であり、文化コミュニケーション学科が4.39点、国際学科が4.36点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が3.79点、機械工学科が3.96点と低い平均点であった。

Q7「先生の説明は聞き取りやすいですか？」

専任教員所属学科別では、3.18～4.52点の平均点であり、教職教育センターが4.52点、国際学科が4.32点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が3.18点、都市創造工学科が3.63点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.65～4.48点の平均点であり、生活環境学科が4.48点、文化コミュニケーション学科が4.43点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が3.65点、都市創造工学科が3.78点と低い平均点であった。

Q8「板書やプロジェクターの表示は見やすいですか？」

専任教員所属学科別では、3.29～4.40点の平均点であり、教職教育センターが4.40点、国際学科が4.25点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が3.29点、都市創造工学科が3.70点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.63～4.53点の平均点であり、生活環境学科が4.53点、文化コ

コミュニケーション学科 4.47 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.63 点、都市創造工学科が 3.83 点と低い平均点であった。

Q9「授業の速さは適切ですか？」

この質問項目に対する回答は、(5)速い、(4)やや速い、(3)適切、(2)やや遅い、(1)遅いとした。専任教員所属学科別では、3.33～3.68 点の平均点であった。学生所属学科別では、3.36～3.74 点の平均点であり、いずれの学科もおおよそ 50%以上の学生が「適切」と回答し、おおよそ 40%弱の学生が「速い」「やや速い」を回答した。いずれの学科も「やや遅い」「遅い」を回答したのはおおよそ 5%の学生であった。

Q10「テキストや配付資料は、内容の理解に効果的ですか？」

専任教員所属学科別では、3.22～4.27 点の平均点であり、教職教育センターが 4.27 点、国際学科が 4.23 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.22 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.63～4.26 点の平均点であり、国際学科および生活環境学科が 4.26 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.63 点、機械工学科と都市創造工学科が 3.80 点と低い平均点であった。

Q11「授業の内容はシラバス通りに進められていますか？」

専任教員所属学科別では、3.65～4.37 点の平均点であり、教職教育センターが 4.37 点、国際学科が 4.35 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.65 点、建築・環境デザイン学科が 3.97 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.90～4.61 点の平均点であり、生活環境学科が 4.61 点、文化コミュニケーション学科が 4.38 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.90 点、建築・環境デザイン学科が 4.03 点と低い平均点であった。

Q12「この授業の成績評価の方法や基準が明らかにされていますか？」

専任教員所属学科別では、3.78～4.43 点の平均点であり、教職教育センターが 4.43 点、環境理工学科が 4.38 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.78 点、建築・環境デザイン学科が 4.01 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.99～4.61 点の平均点であり、生活環境学科が 4.61 点、文化コミュニケーション学科が 4.43 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.99 点と低い平均点であった。

Q13「この授業にとってこの教室の設備や器具などは十分ですか？」

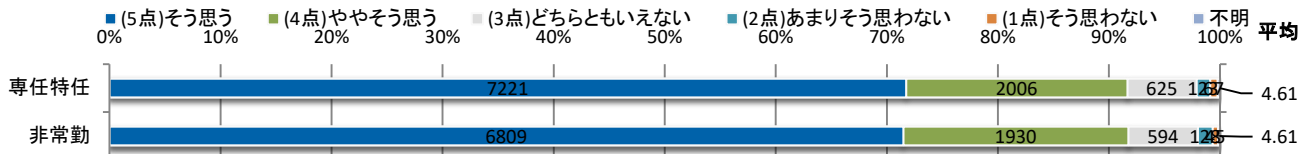
専任教員所属学科別では、3.86～4.46 点の平均点であり、教職教育センターが 4.46 点、国際学科が 4.39 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.86 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、4.02～4.46 点の平均点であり、文化コミュニケーション学科が 4.46 点、生活環境学科が 4.43 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 4.02 点と低い平均点であった。

Q14「この授業は総合的に見て満足できる授業ですか？」

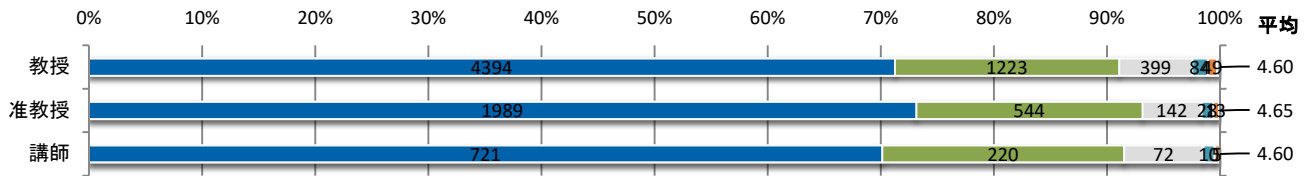
専任教員所属学科別では、3.07～4.50 点の平均点であり、教職教育センターが 4.50 点、国際学科が 4.28 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.07 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.63～4.44 点の平均点であり、生活環境学科が 4.44 点、文化コミュニケーション学科が 4.32 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.63 点、都市創造工学科が 3.86 点であった。

1. この授業によく出席していますか？

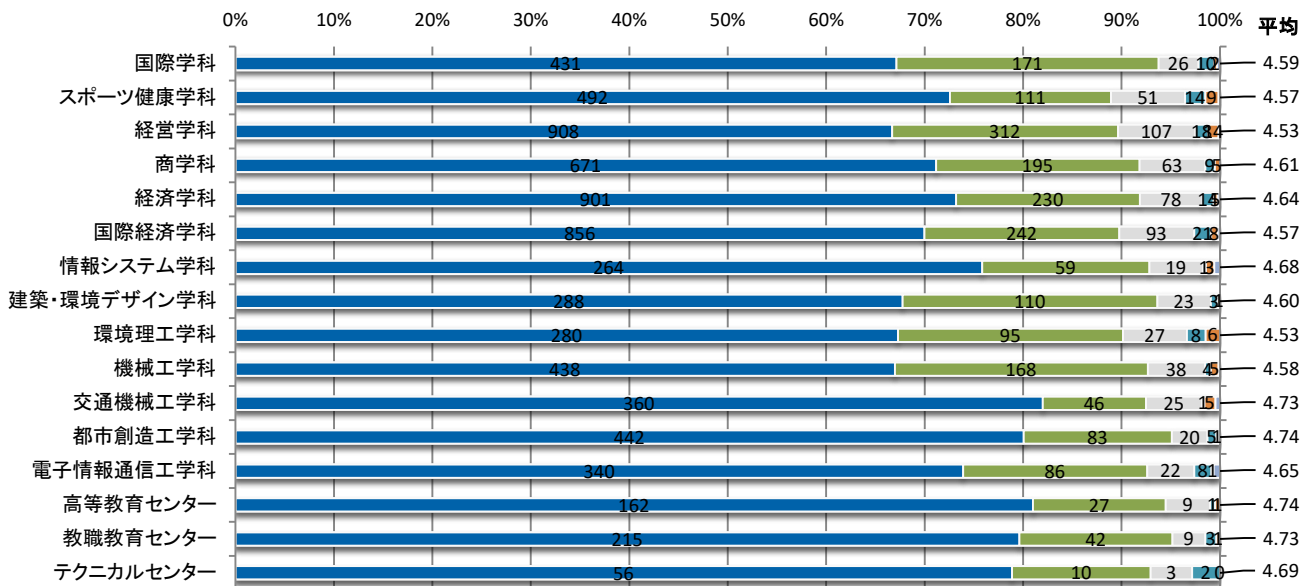
■教員雇用形態別



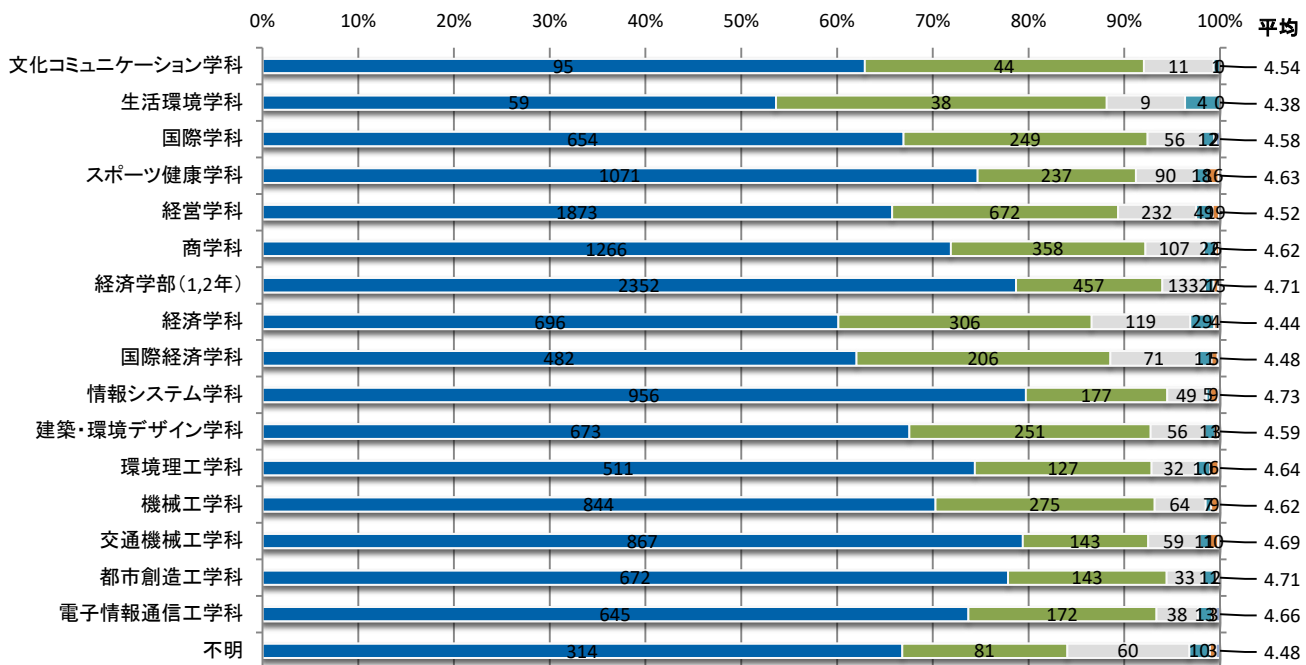
■専任教員職責別



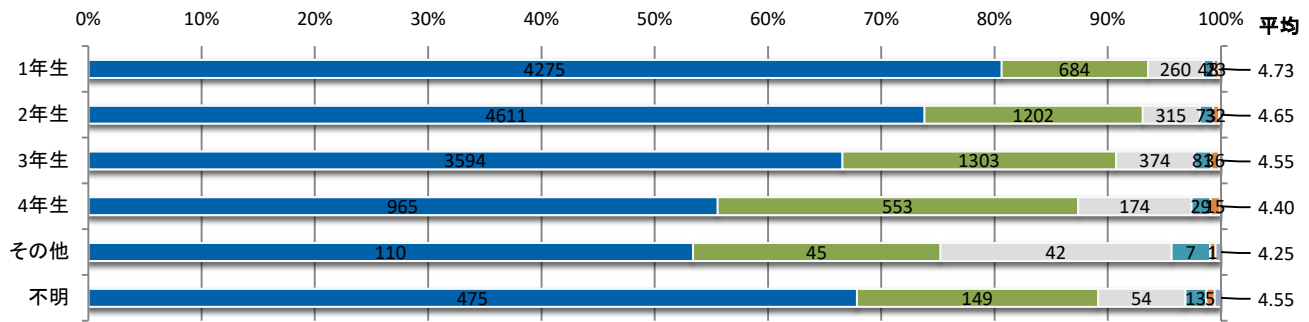
■専任教員所属学科別



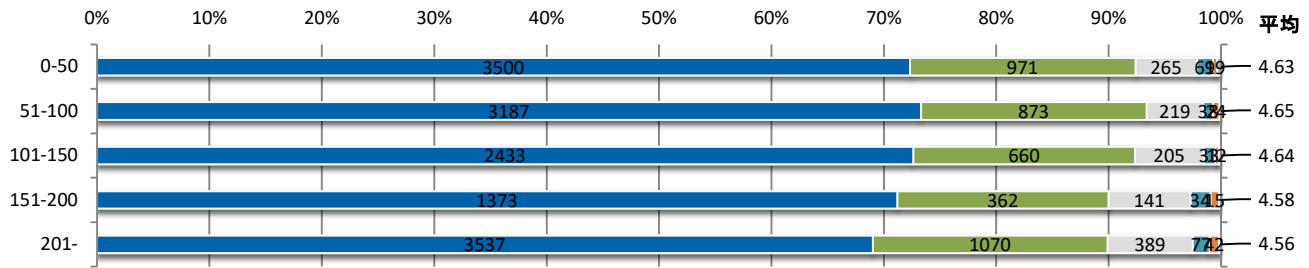
■学生所属学科別



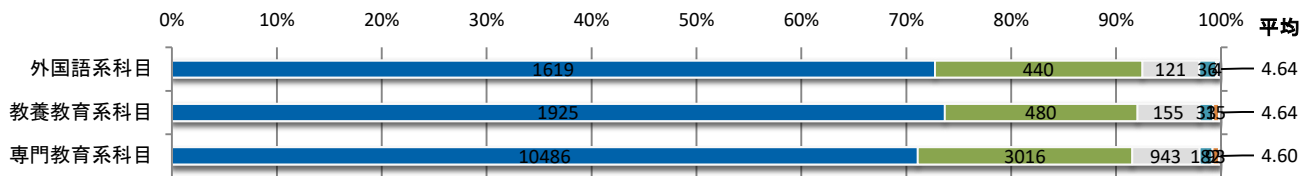
■ 学年別



■ 履修者数別

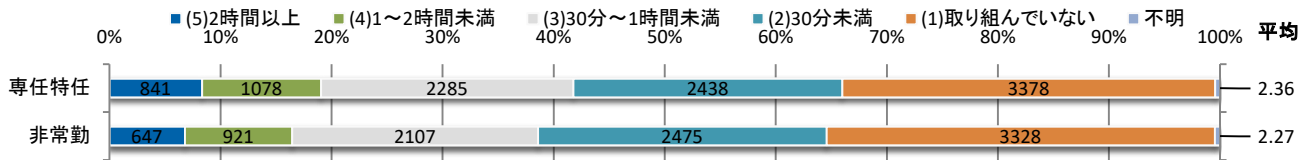


■ 科目区分別

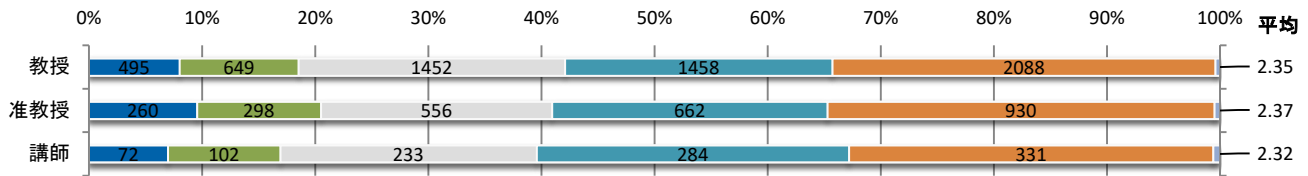


2. この授業の予習復習や関連する内容についての自己学習を行っていますか？

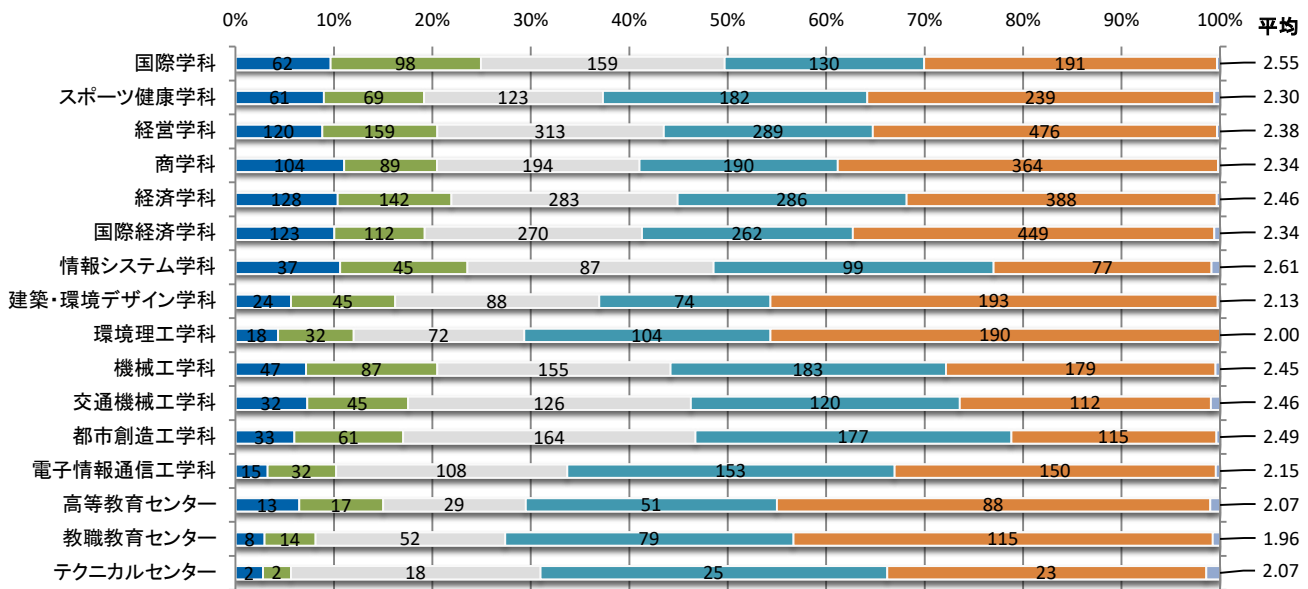
■教員雇用形態別



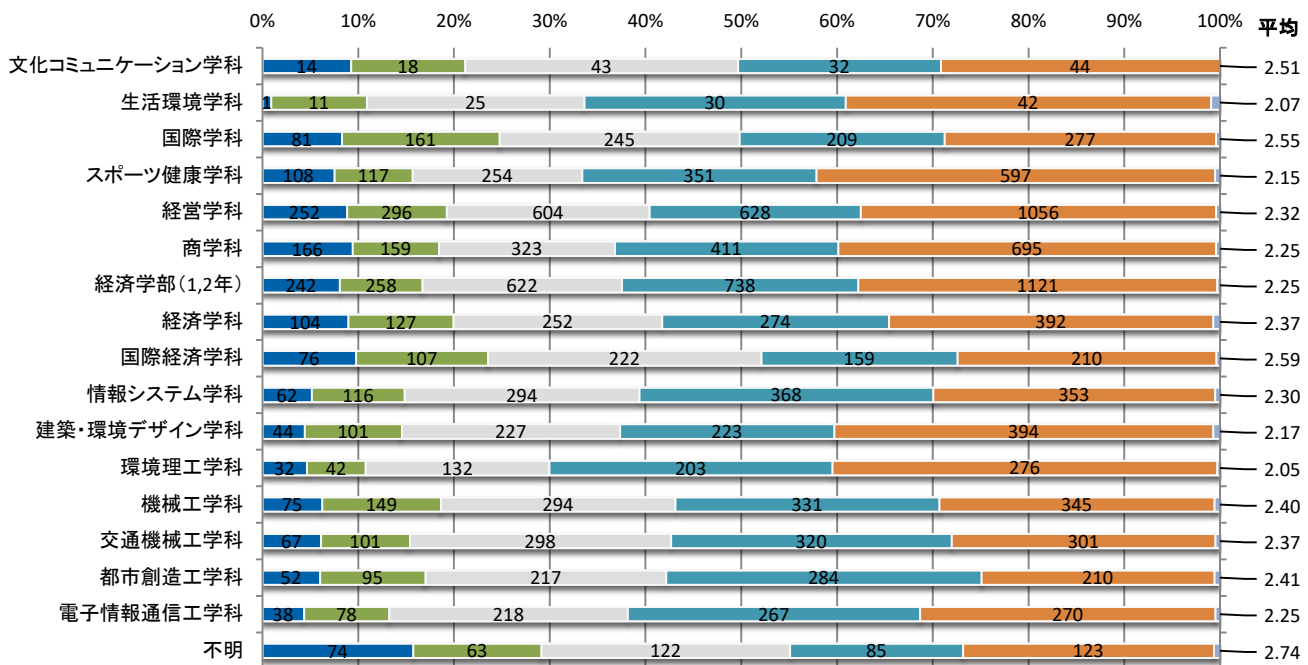
■専任教員職責別



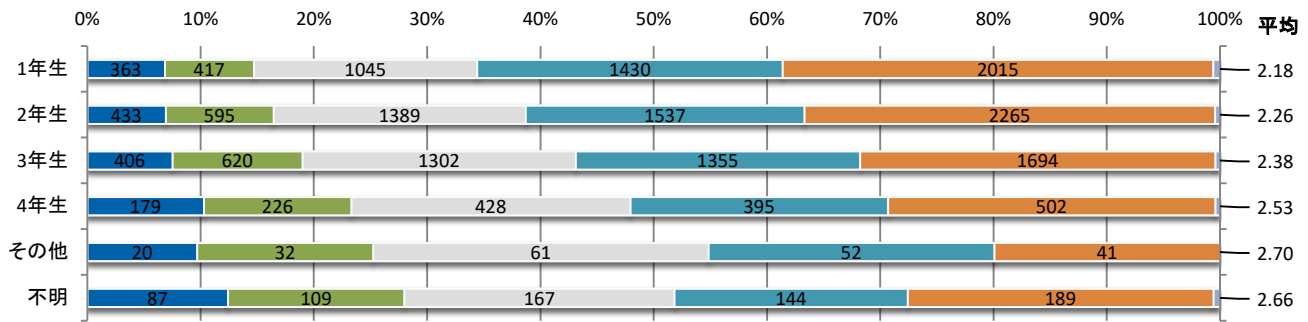
■専任教員所属学科別



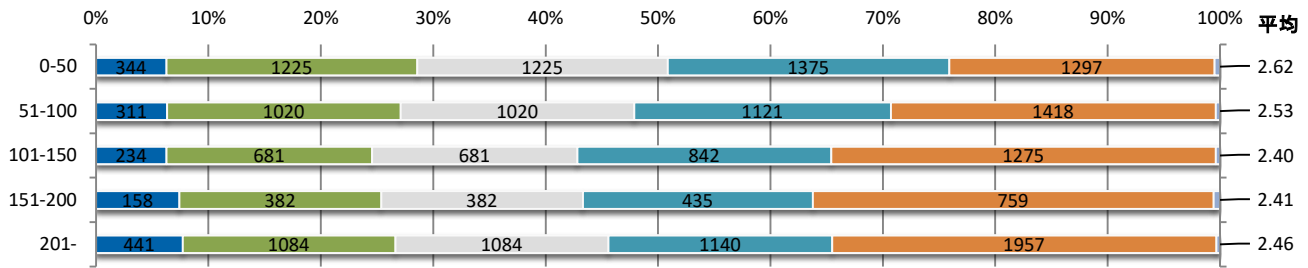
■学生所属学科別



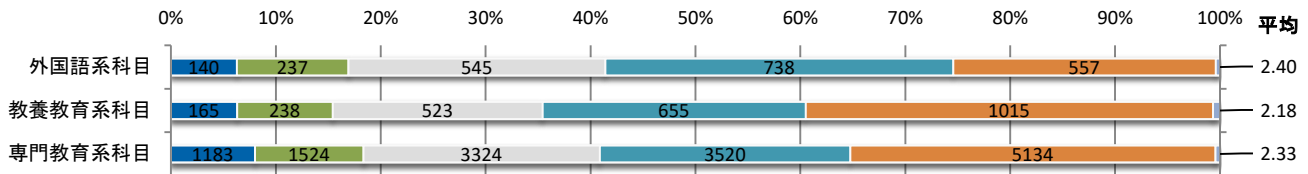
■ 学年別



■ 履修者数別

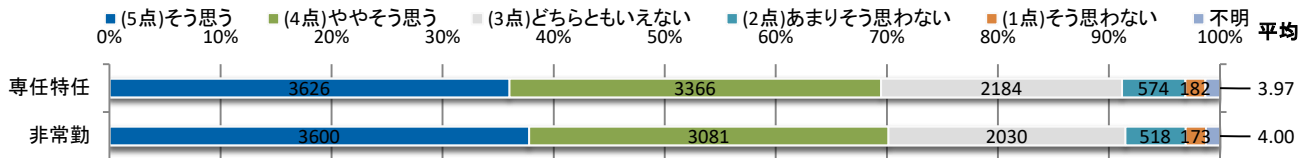


■ 科目区分別

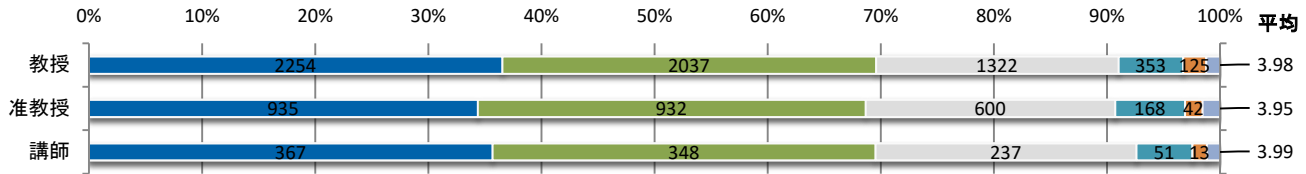


3. この授業中あなた自身は、私語や居眠りをせず集中して聞いていますか？

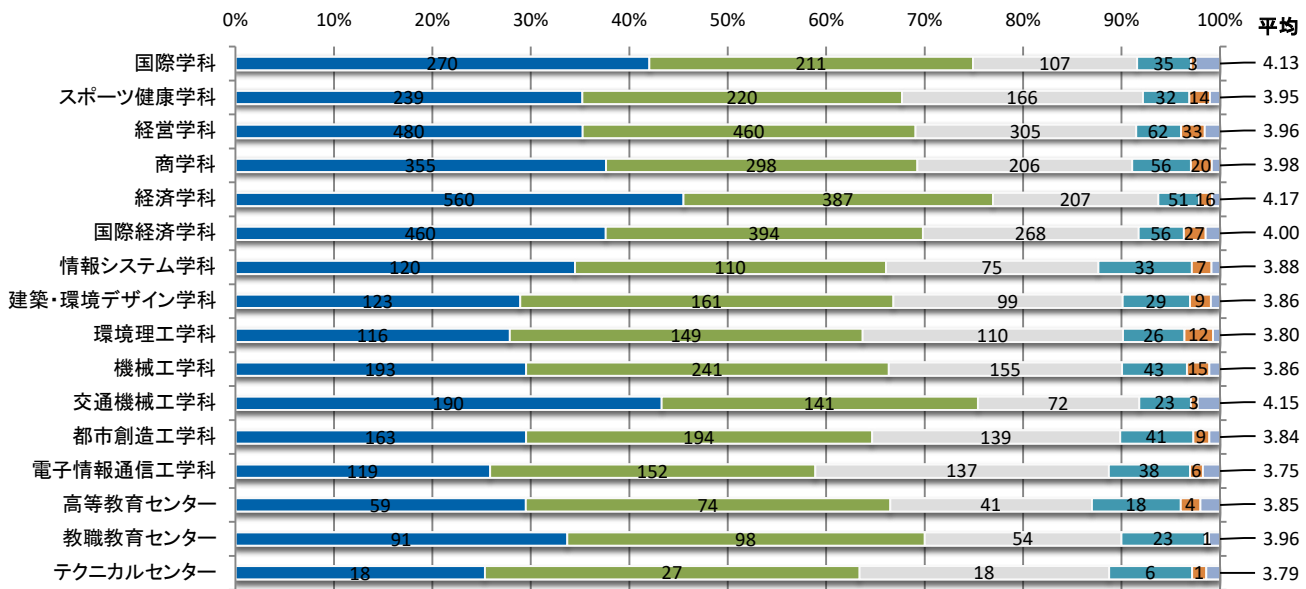
■ 教員雇用形態別



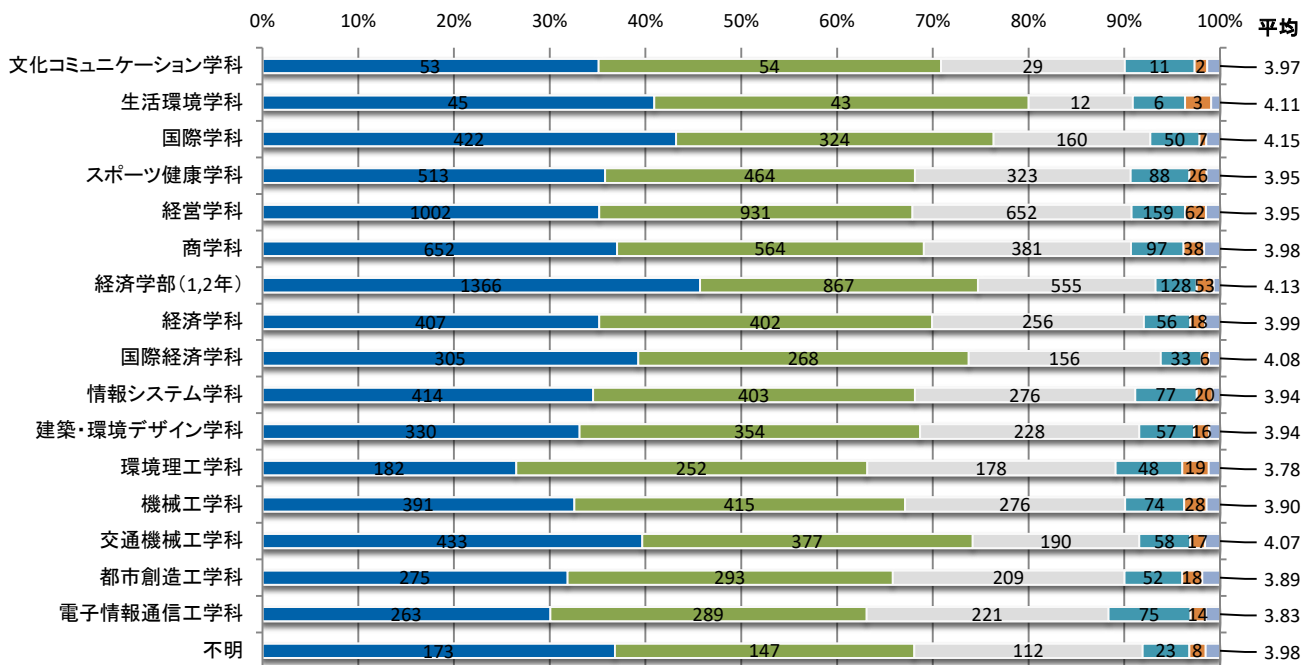
■ 専任教員職責別



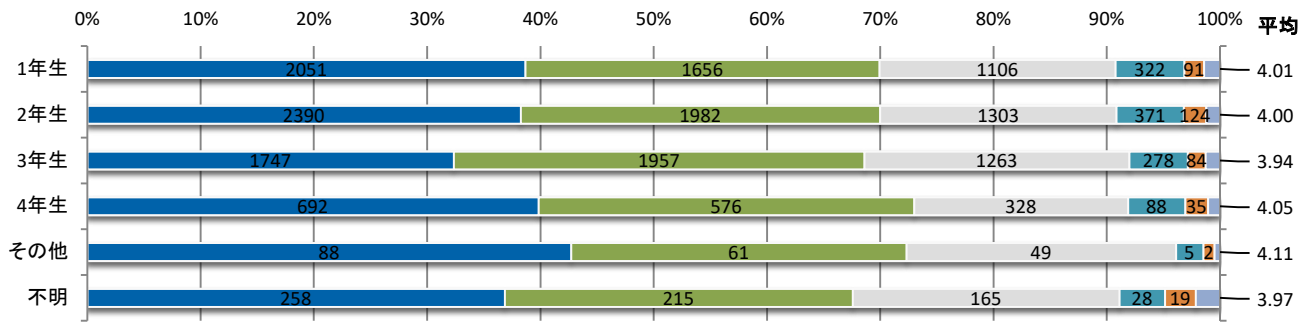
■ 専任教員所属学科別



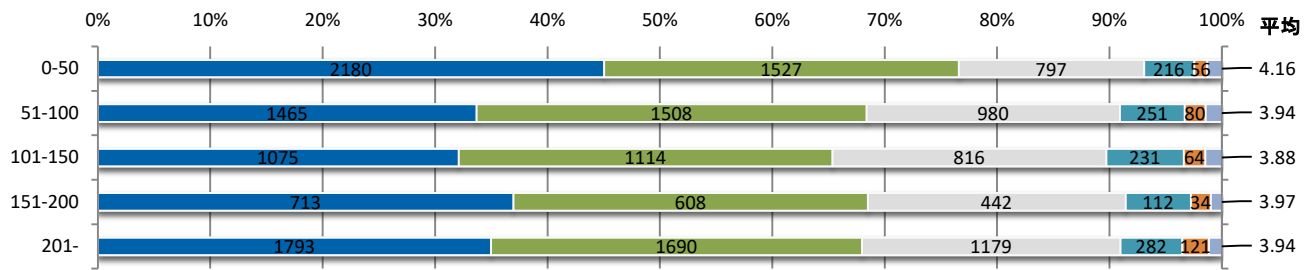
■ 学生所属学科別



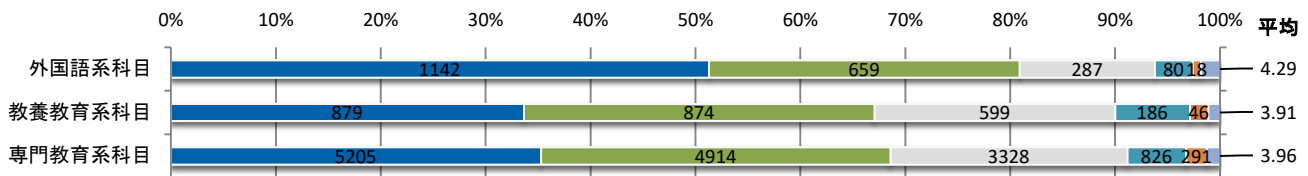
■ 学年別



■ 履修者数別

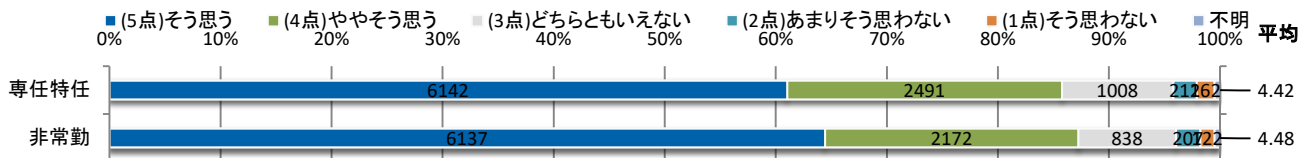


■ 科目区分別

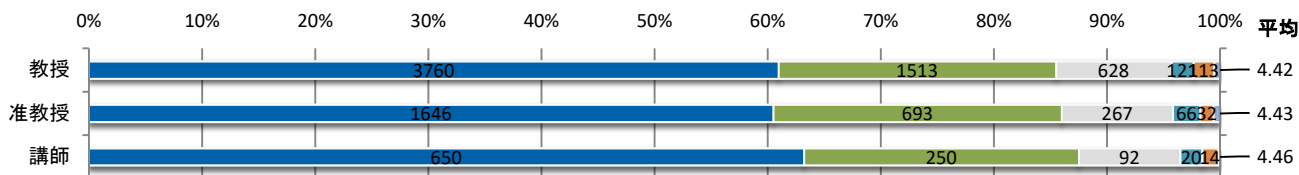


4. 先生は、開始時間と終了時間を守っていますか？

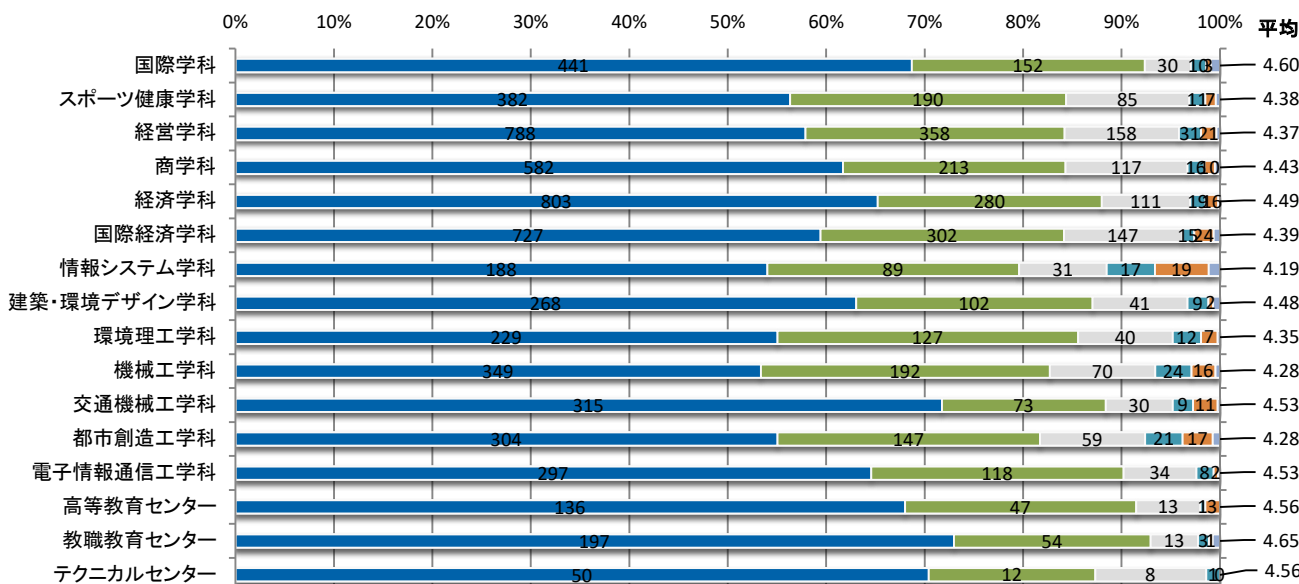
■ 教員雇用形態別



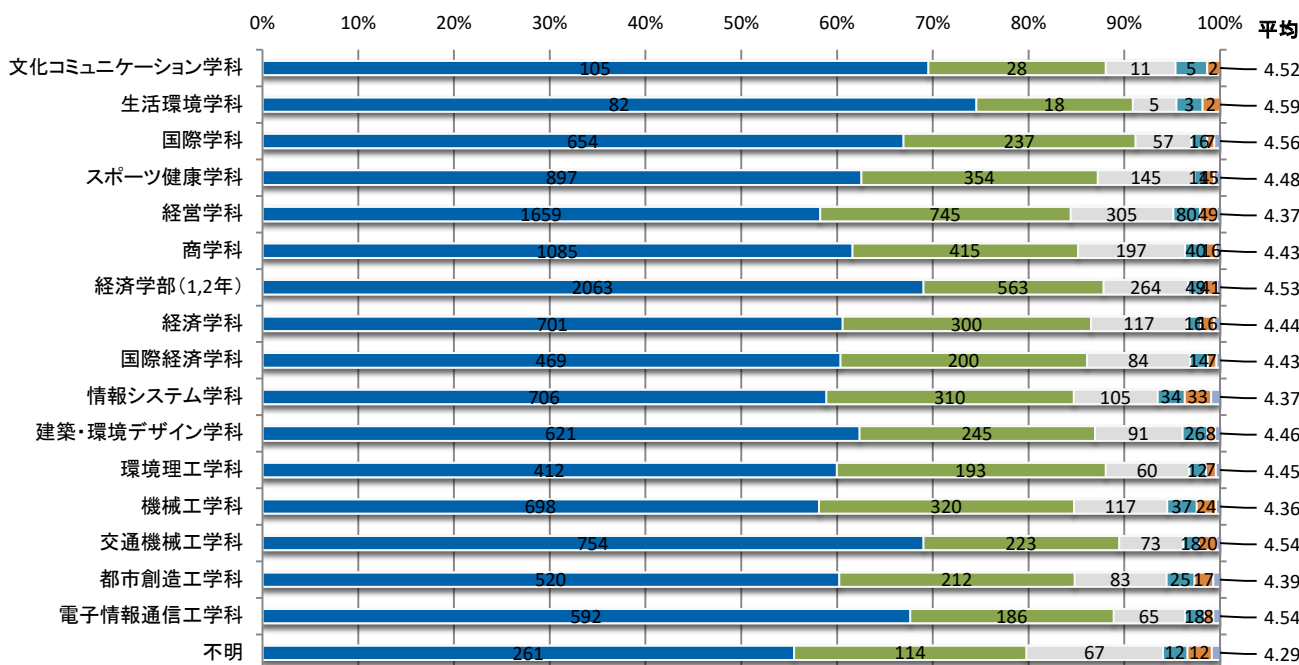
■ 専任教員職責別



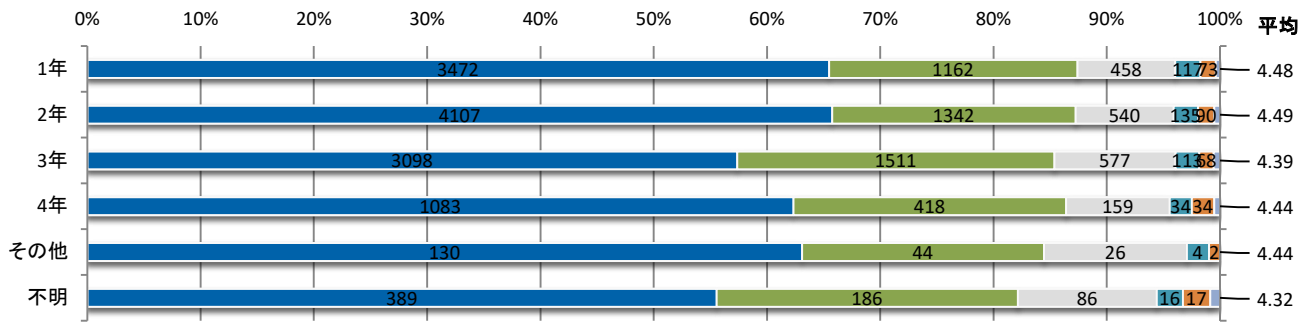
■ 専任教員所属学科別



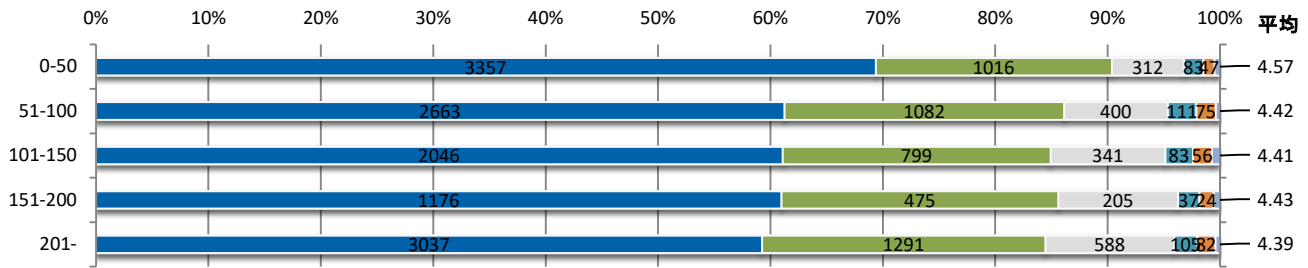
■ 学生所属学科別



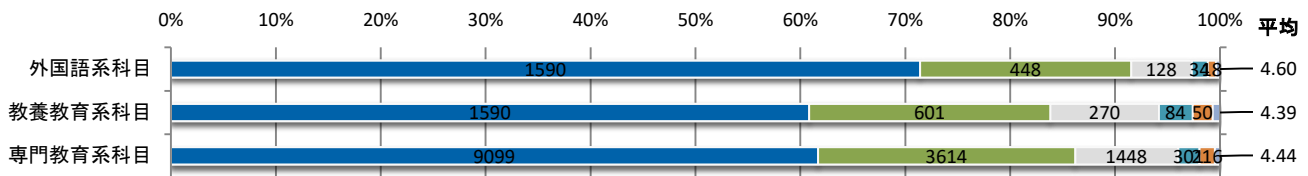
■ 学年別



■ 履修者数別

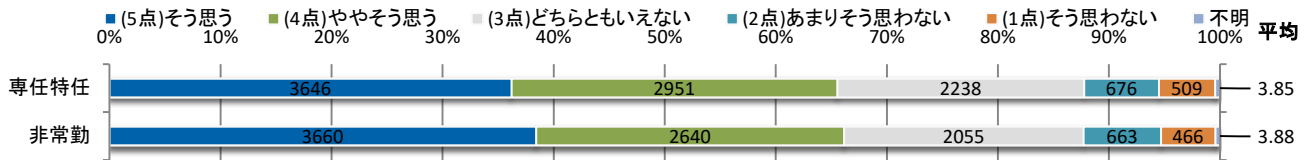


■ 科目区分別

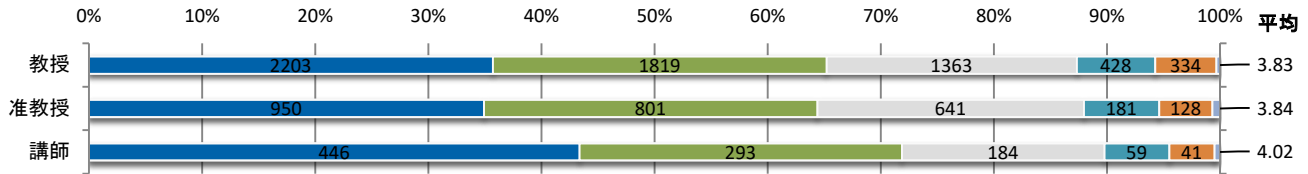


5. 先生は、学生とコミュニケーションを取りながら授業をしていますか？ □

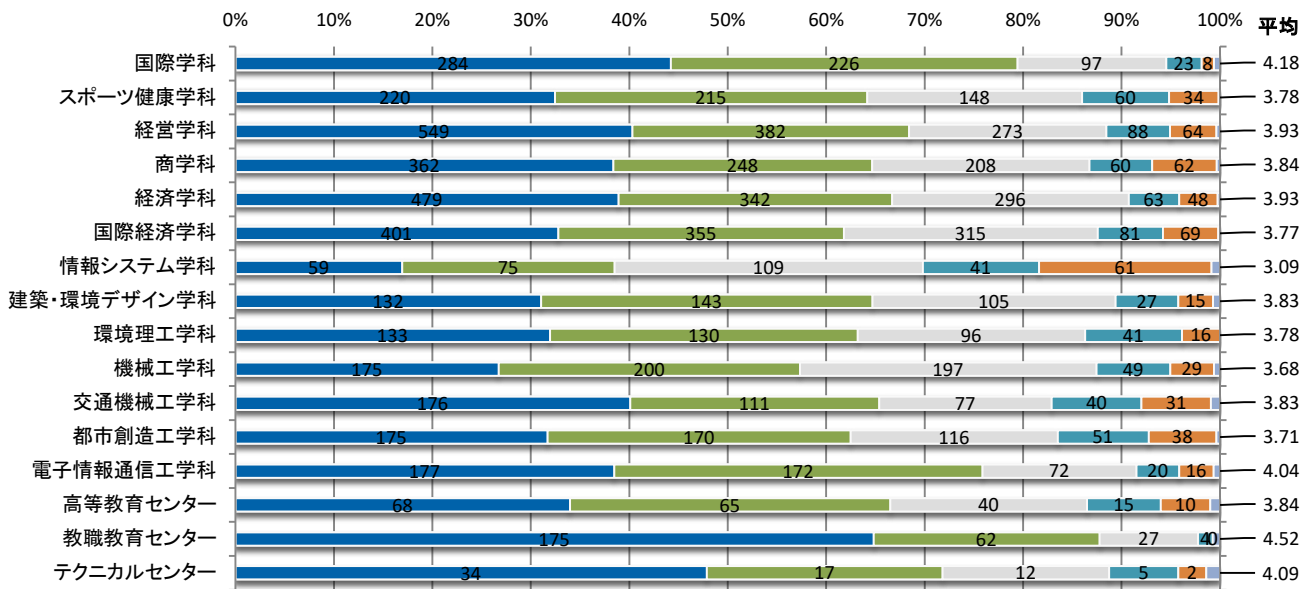
■教員雇用形態別



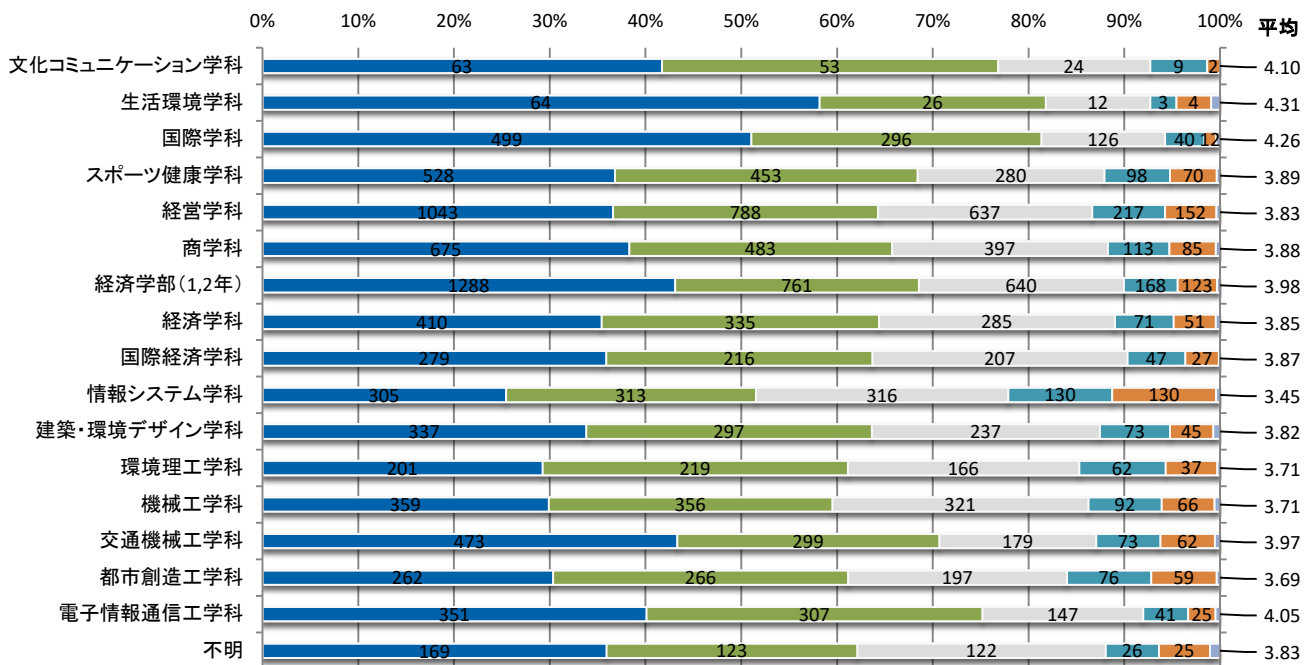
■専任教員職責別



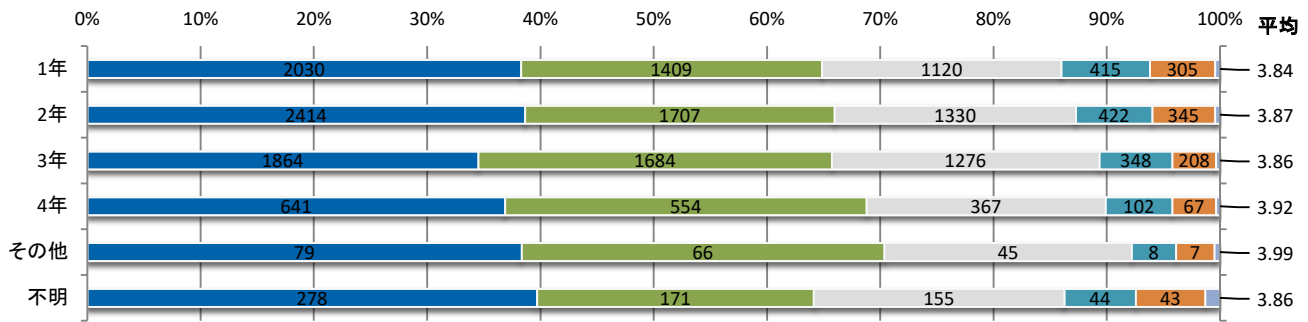
■専任教員所属学科別



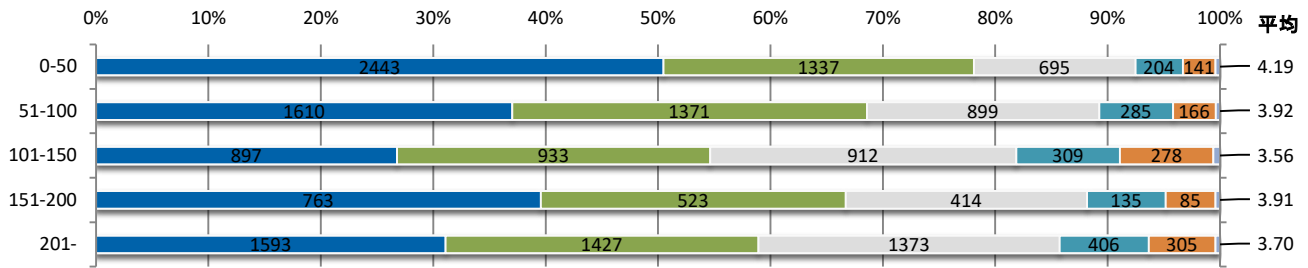
■学生所属学科別



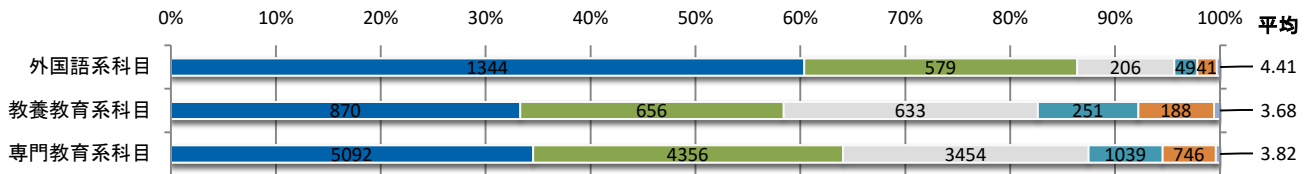
■ 学年別



■ 履修者数別

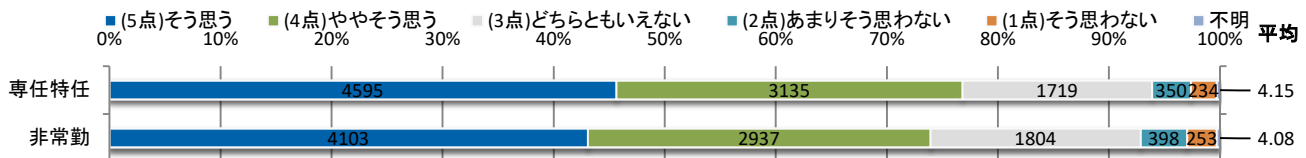


■ 科目区分別

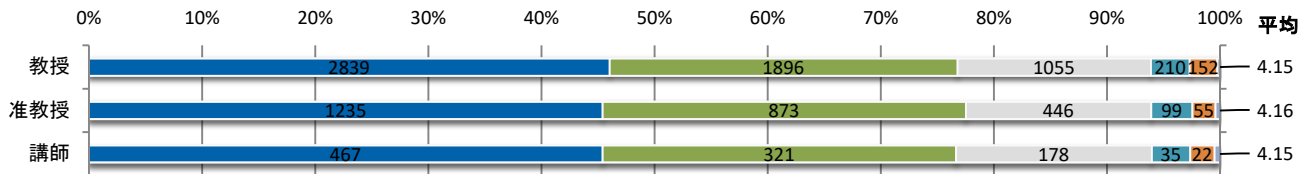


6. 先生は、私語への注意など、授業を受けやすいように配慮していますか？

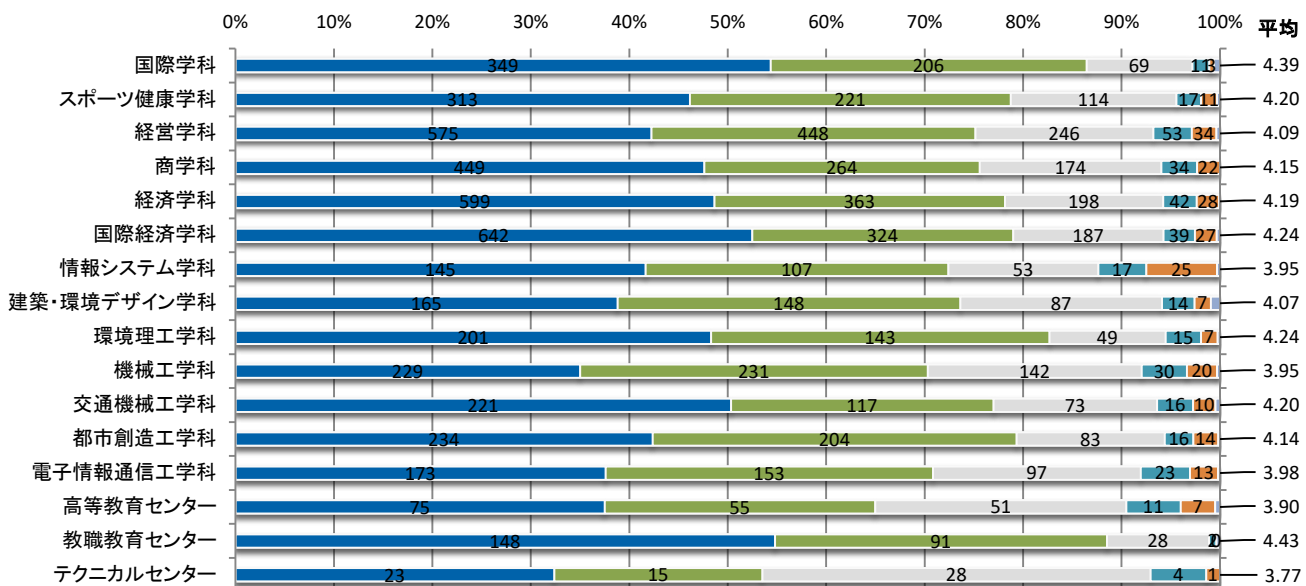
■教員雇用形態別



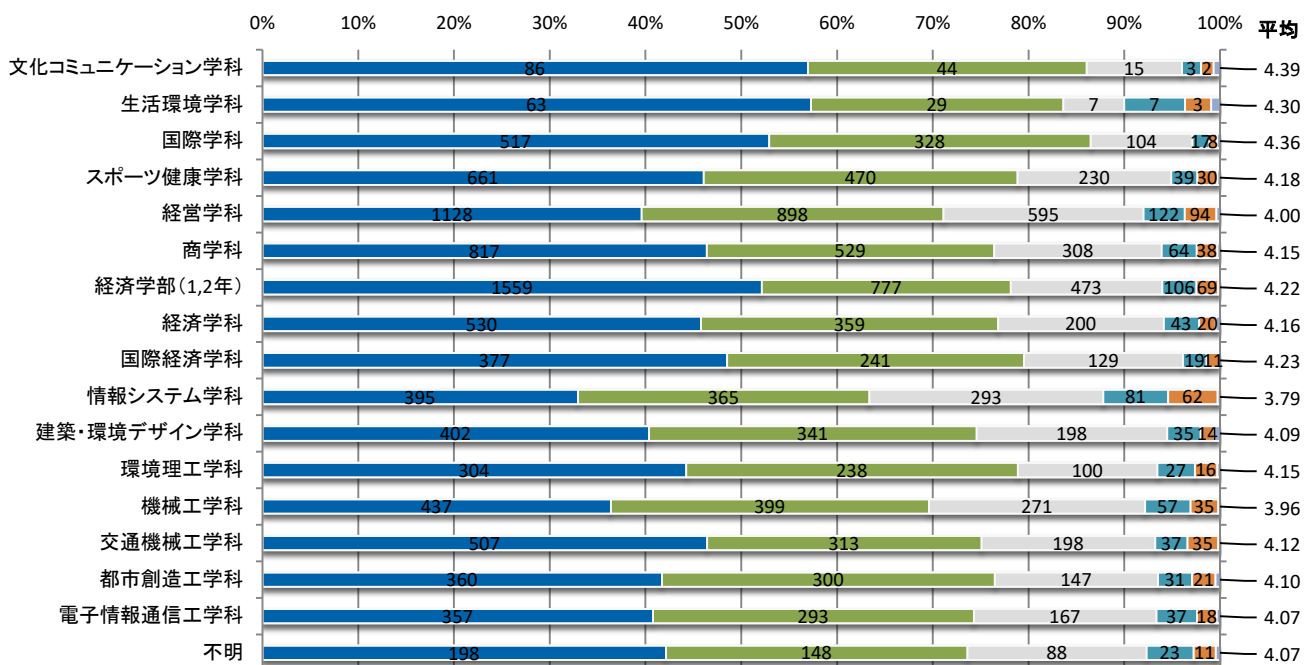
■専任教員職責別



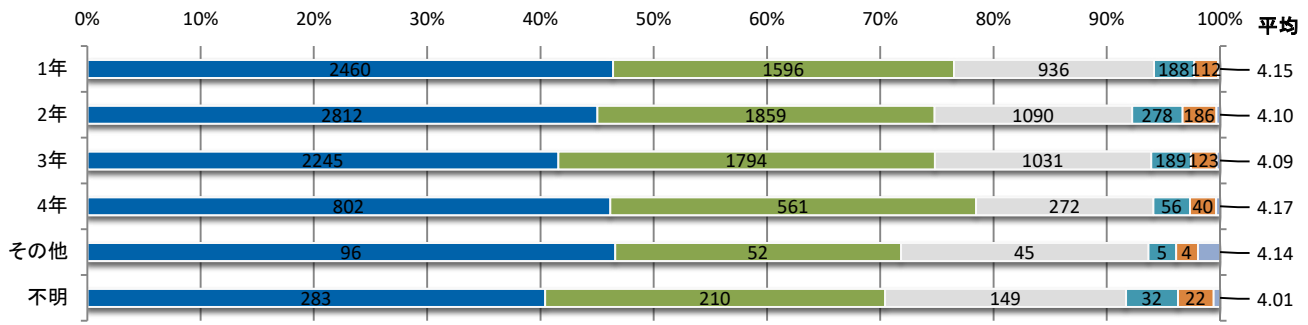
■専任教員所属学科別



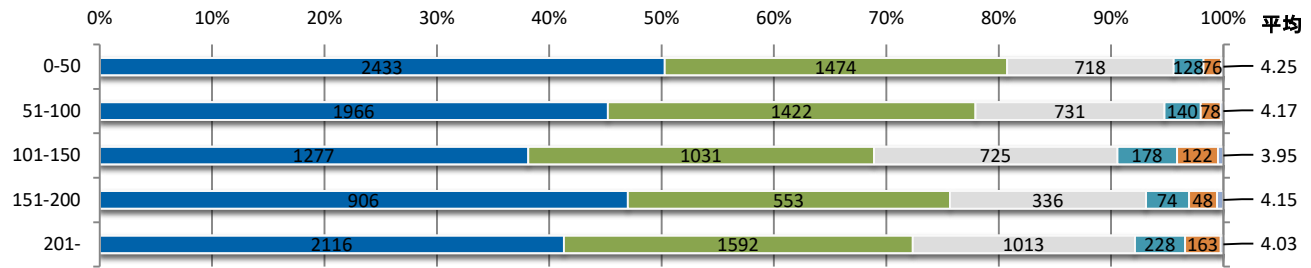
■学生所属学科別



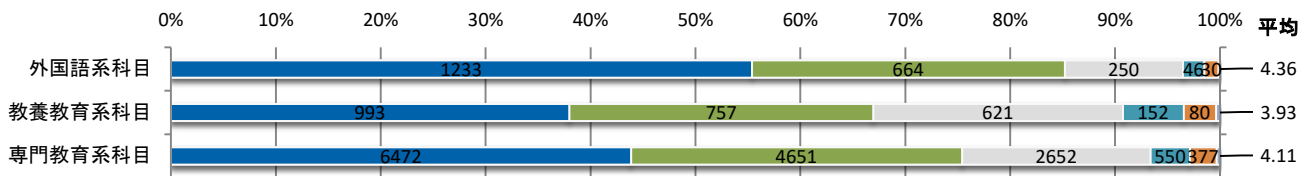
■ 学年別



■ 履修者数別

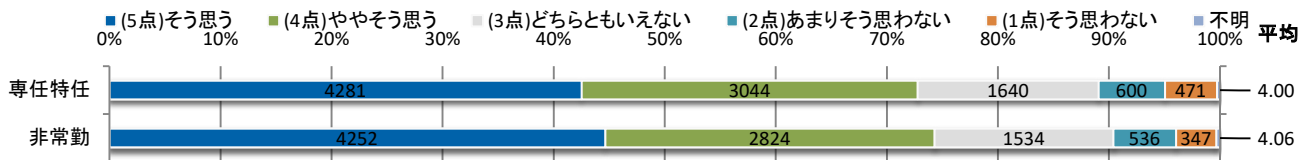


■ 科目区分別

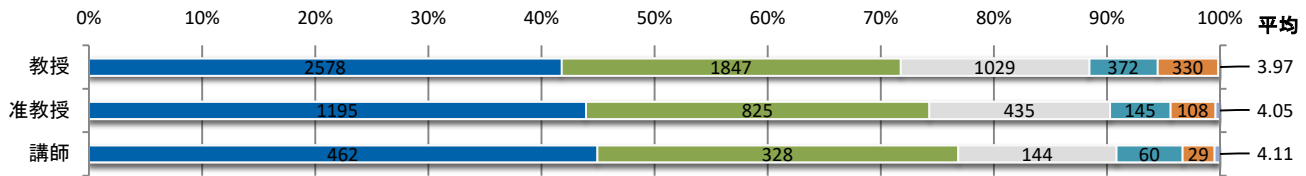


7. 先生の説明は聞き取りやすいですか？

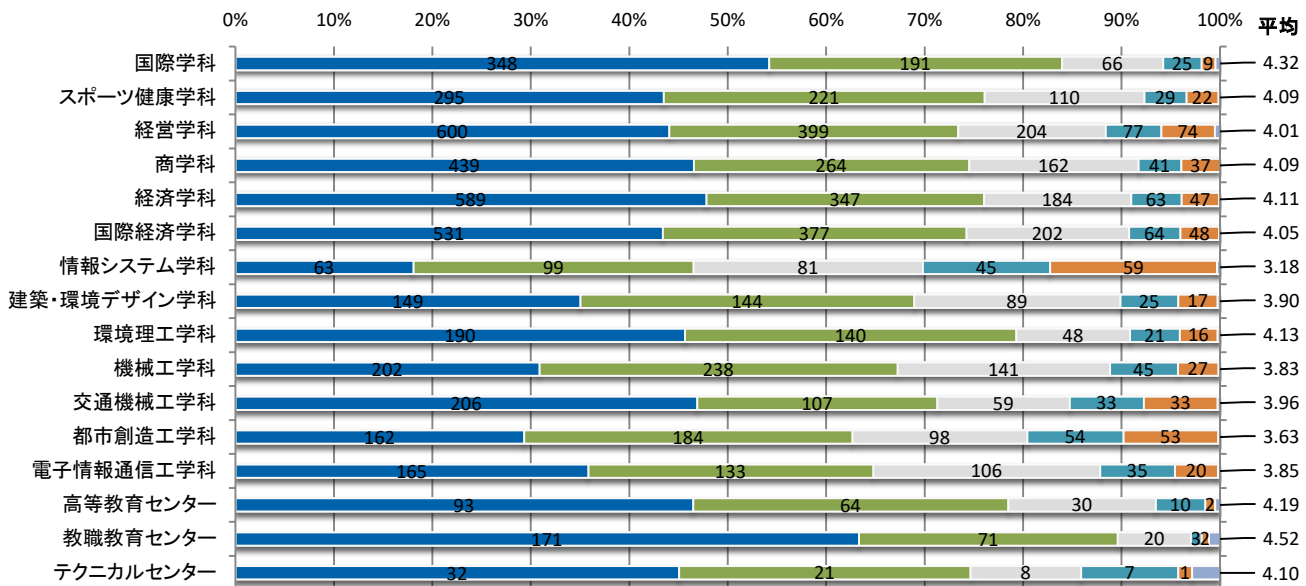
■教員雇用形態別



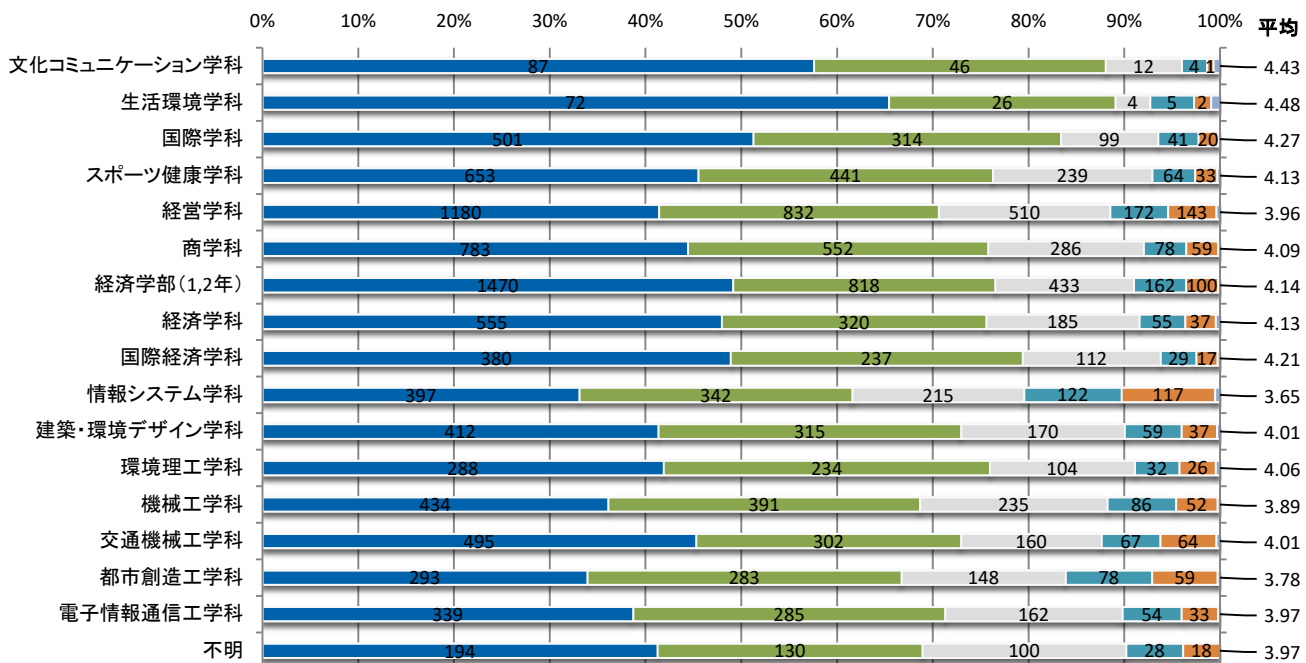
■専任教員職責別



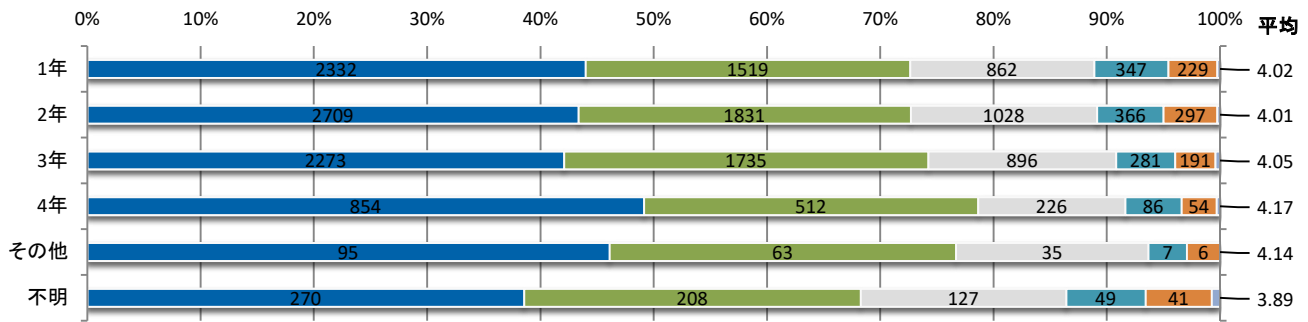
■専任教員所属学科別



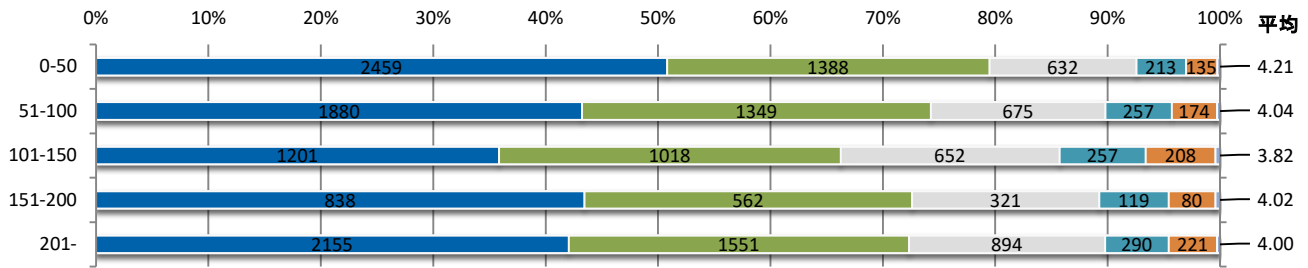
■学生所属学科別



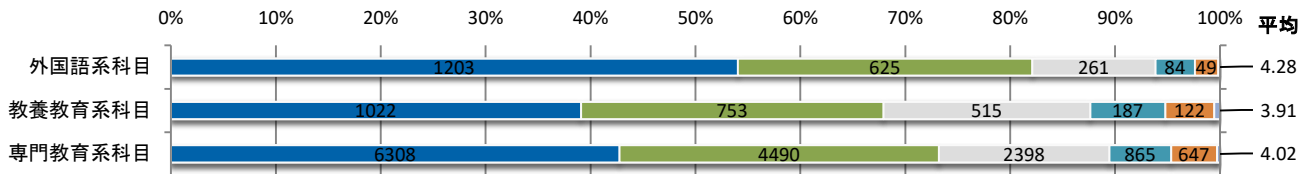
■ 学年別



■ 履修者数別

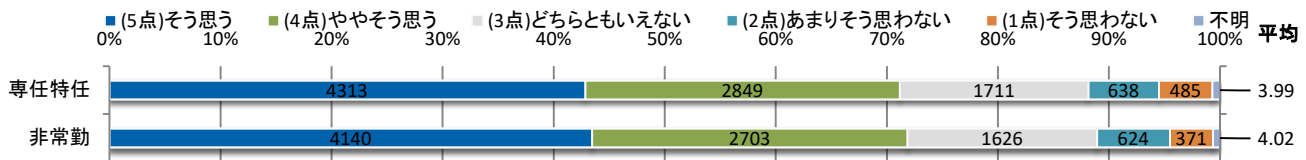


■ 科目区分別

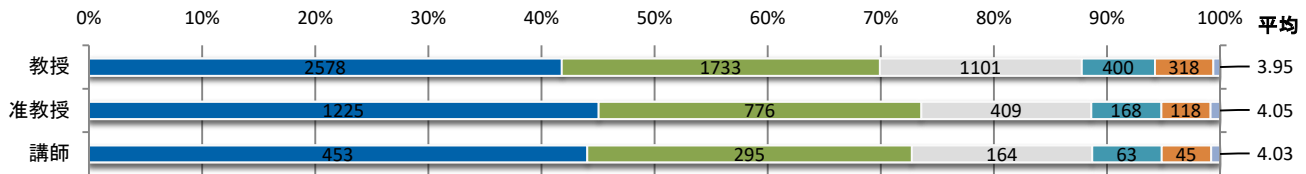


8. 板書やプロジェクターの表示は見やすいですか？

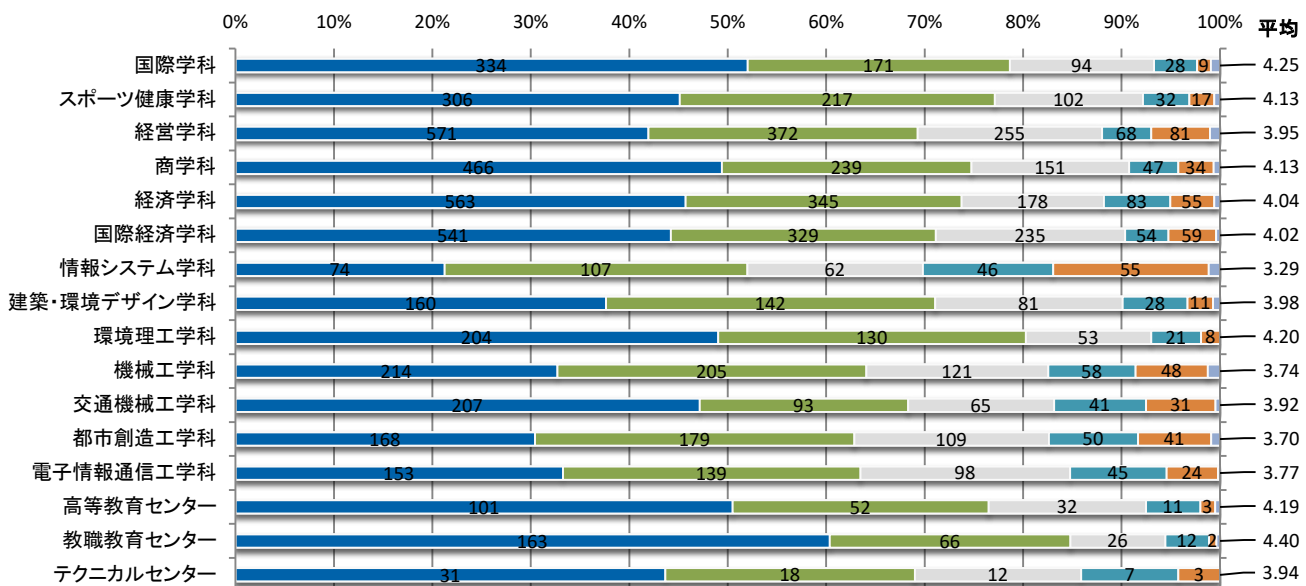
■教員雇用形態別



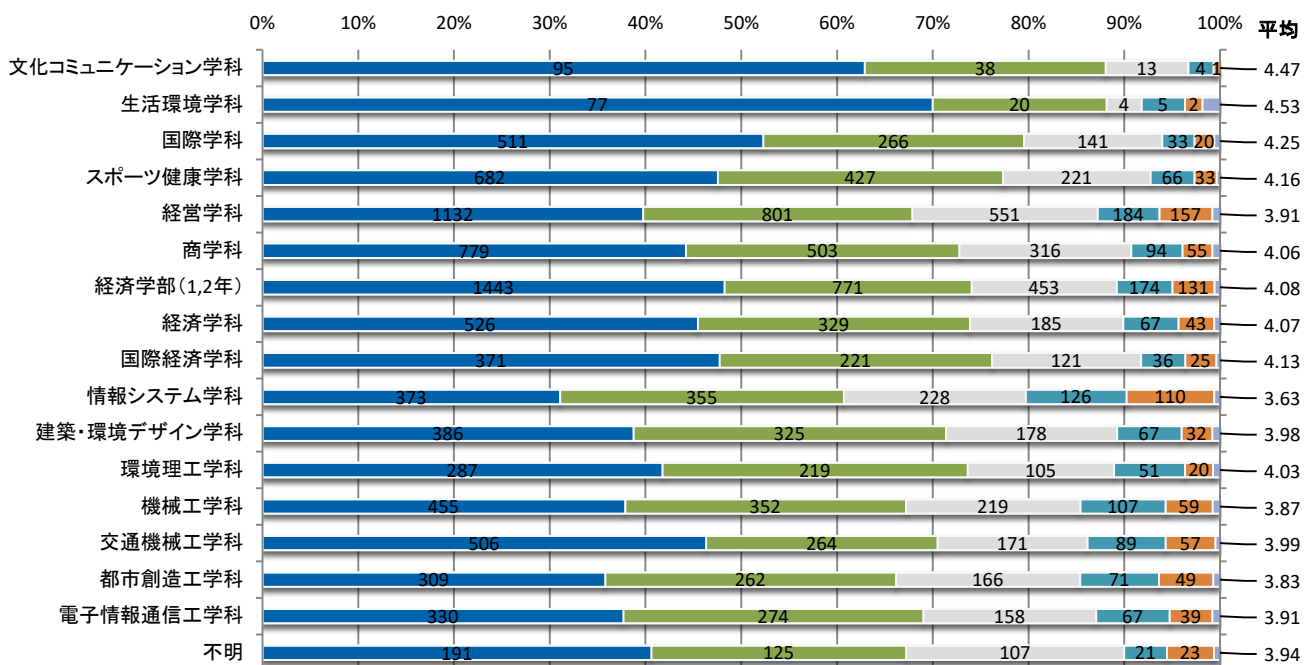
■専任教員職責別



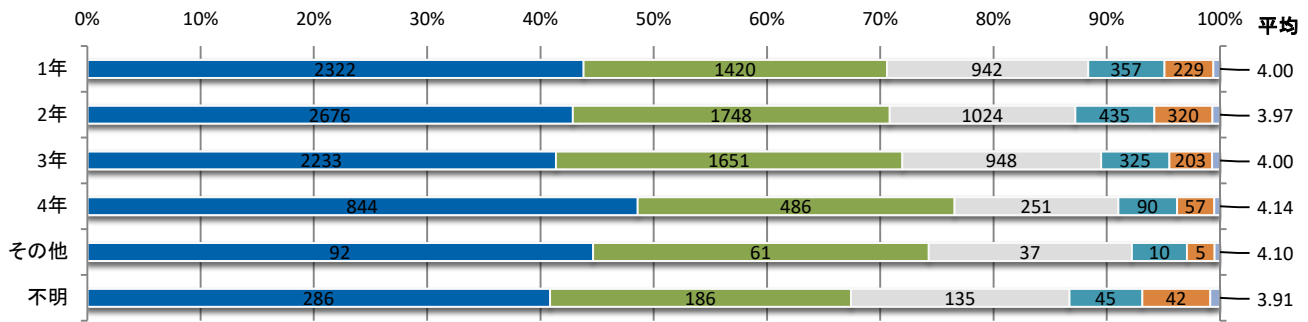
■専任教員所属学科別



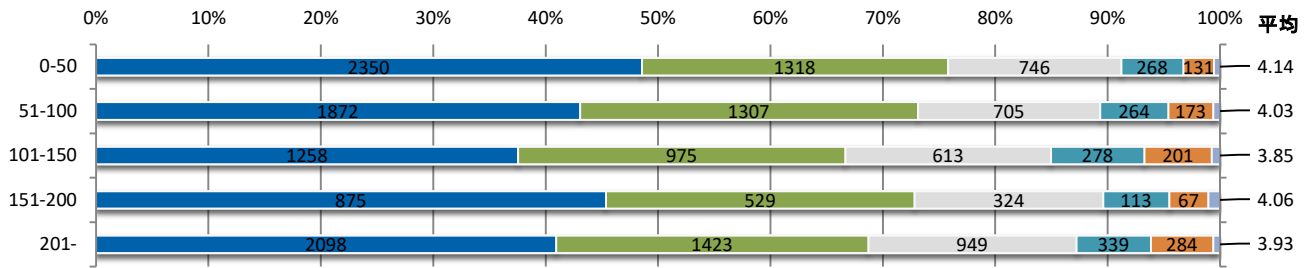
■学生所属学科別



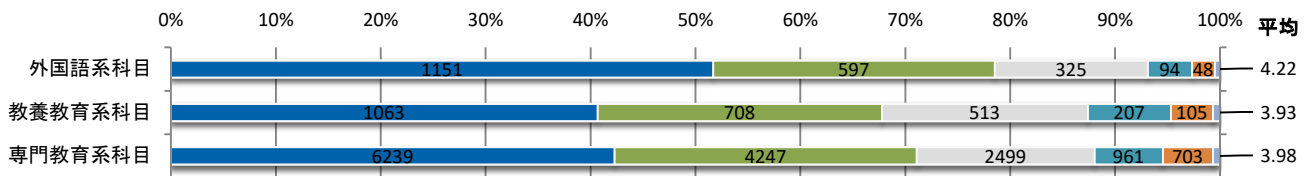
■ 学年別



■ 履修者数別

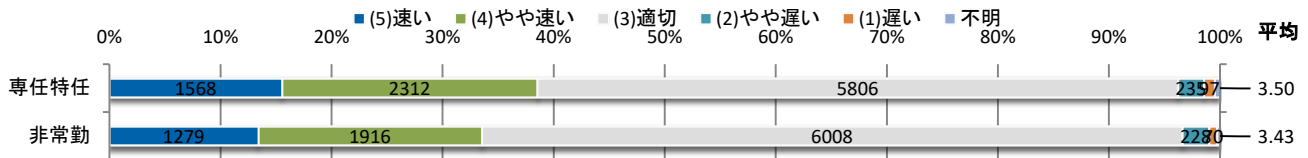


■ 科目区分別

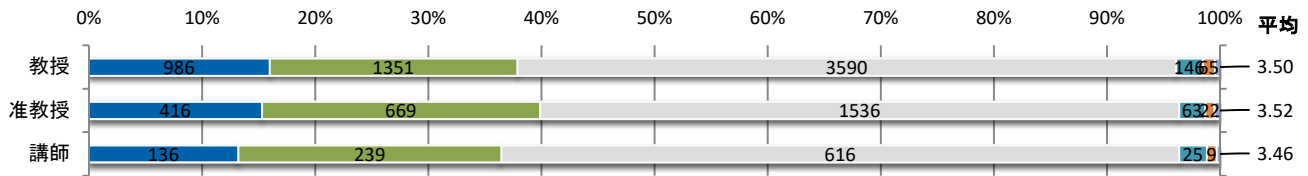


9. 授業の速さは適切ですか？

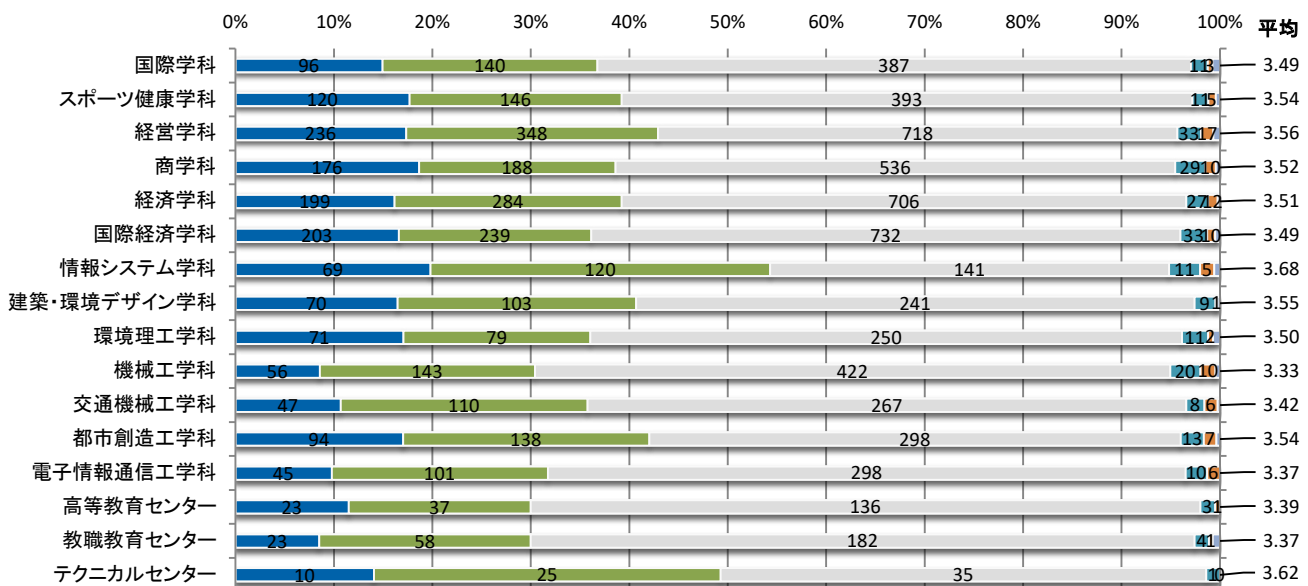
■ 教員雇用形態別



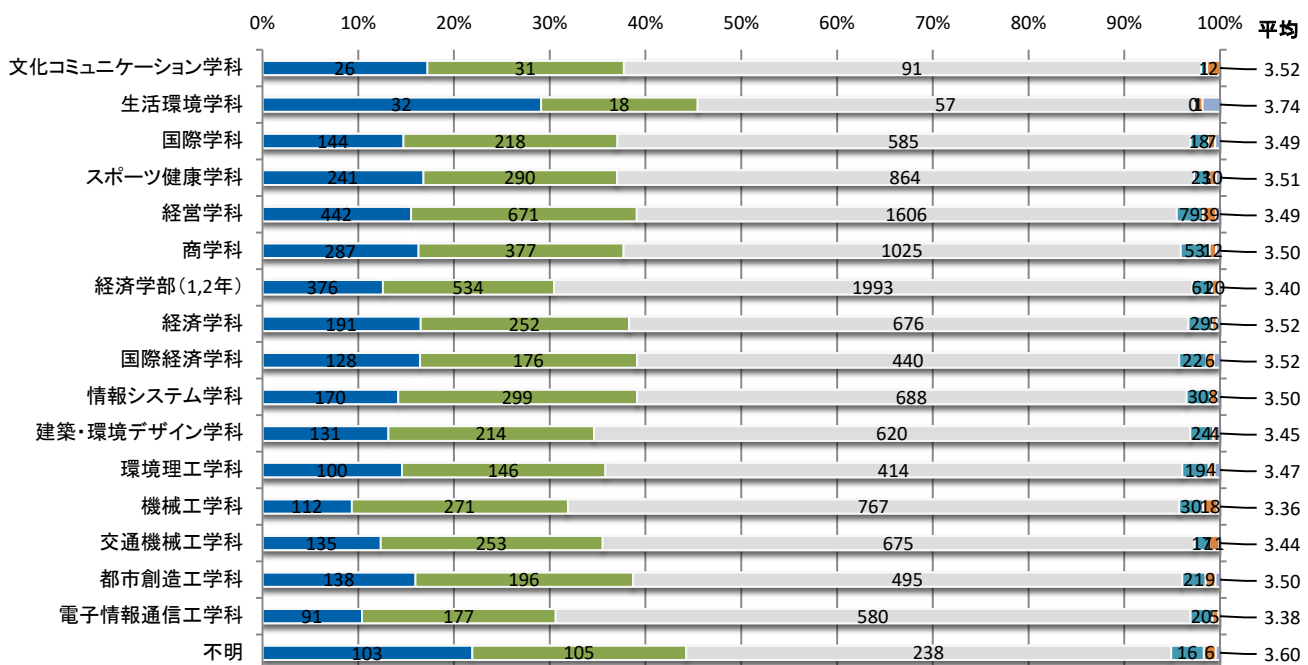
■ 専任教員職責別



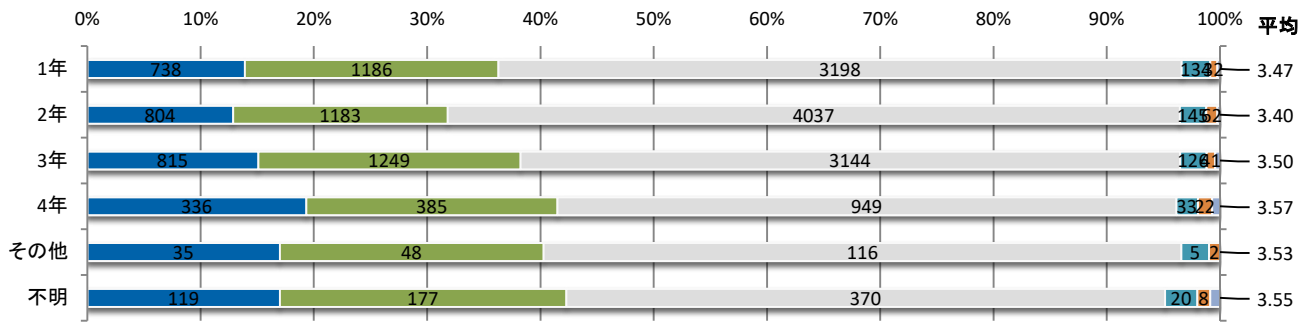
■ 専任教員所属学科別



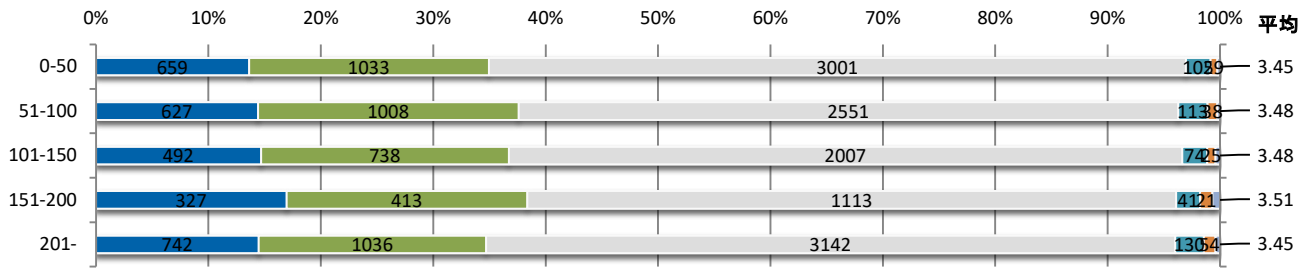
■ 学生所属学科別



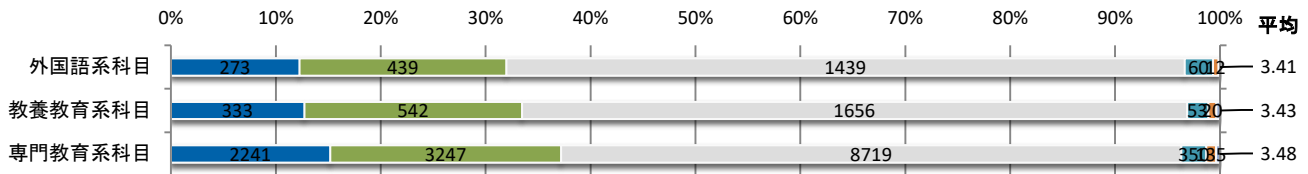
■ 学年別



■ 履修者数別

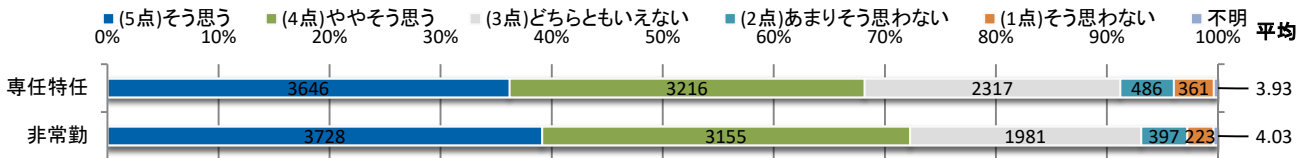


■ 科目区分別

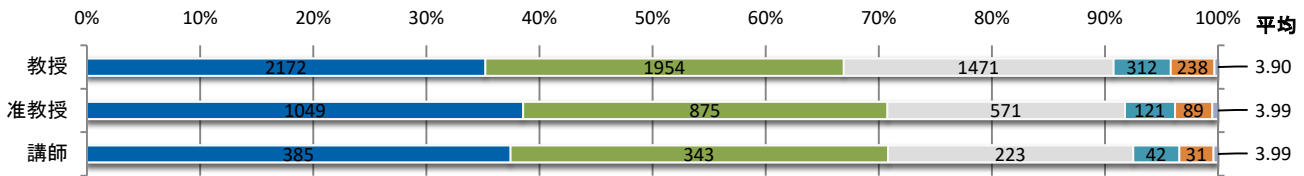


10. テキストや配布資料は、内容の理解に効果的ですか？

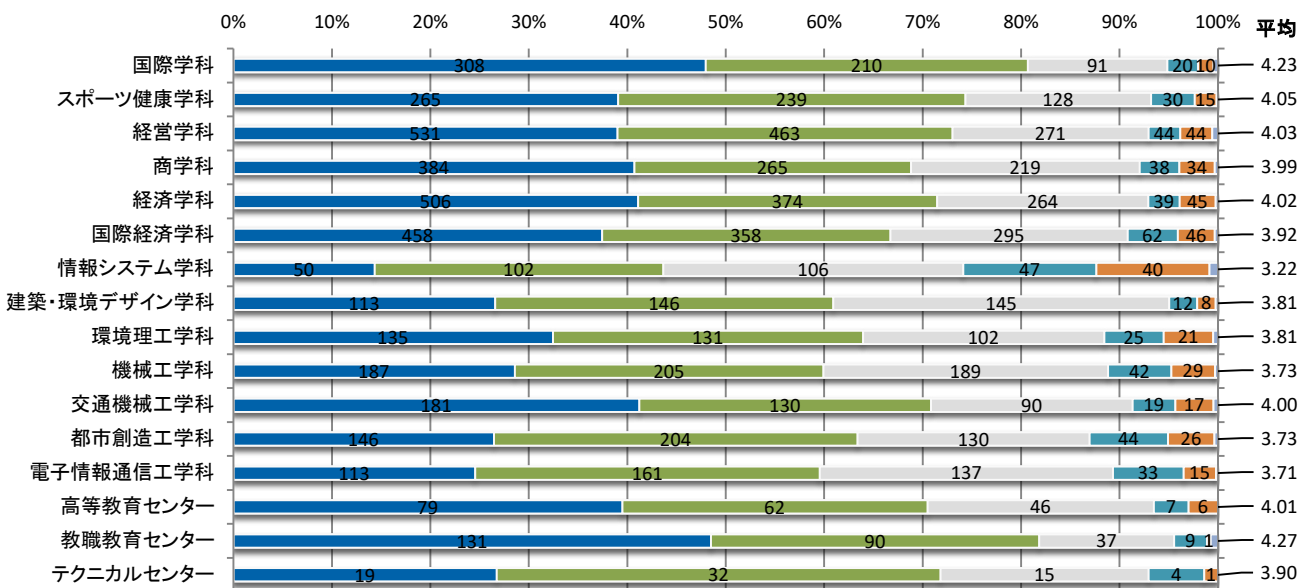
■教員雇用形態別



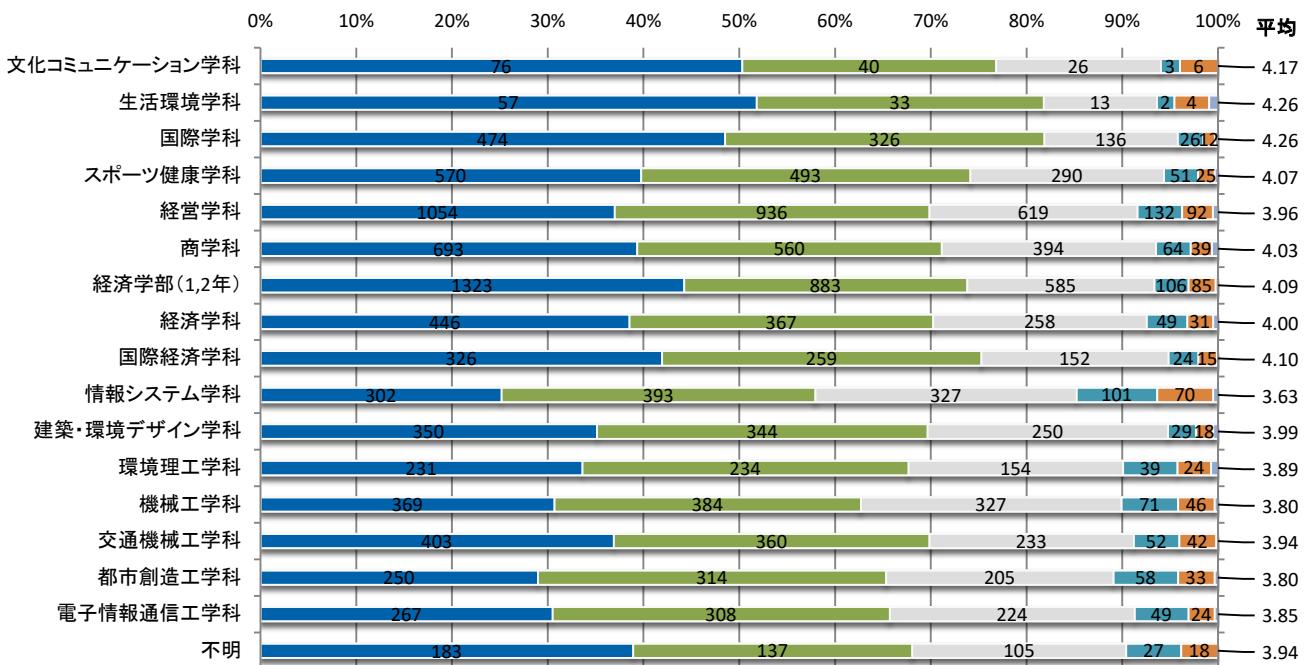
■専任教員職責別



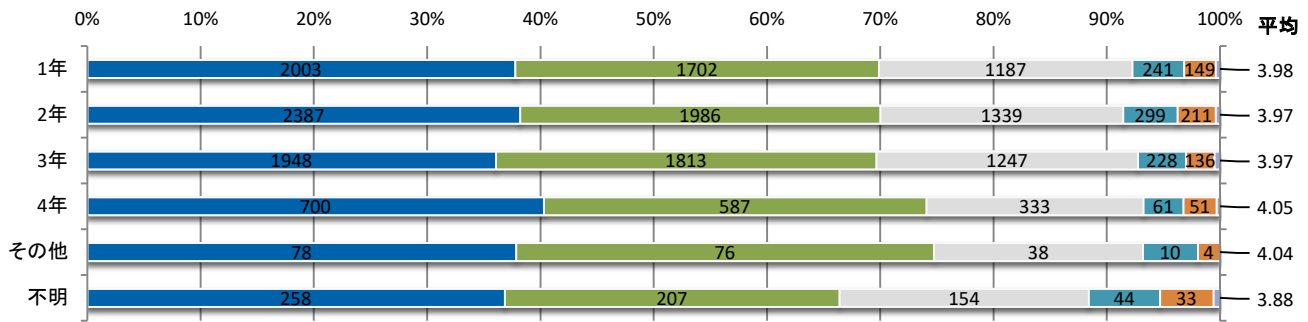
■専任教員所属学科別



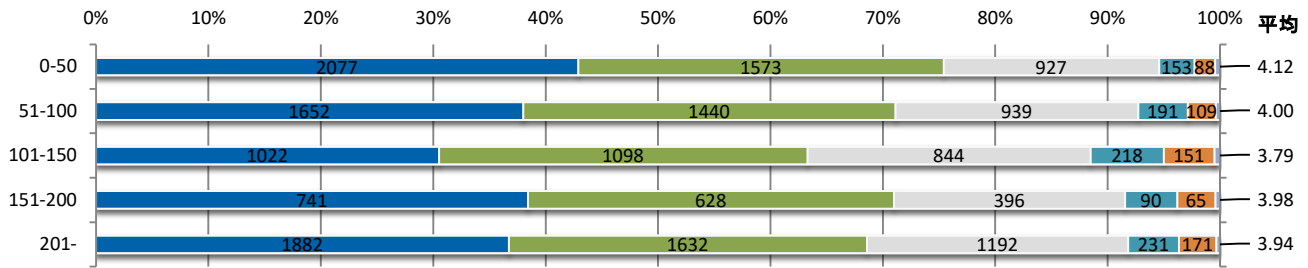
■学生所属学科別



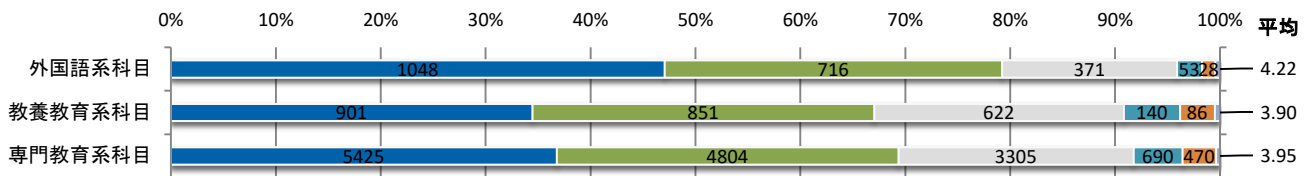
■ 学年別



■ 履修者数別

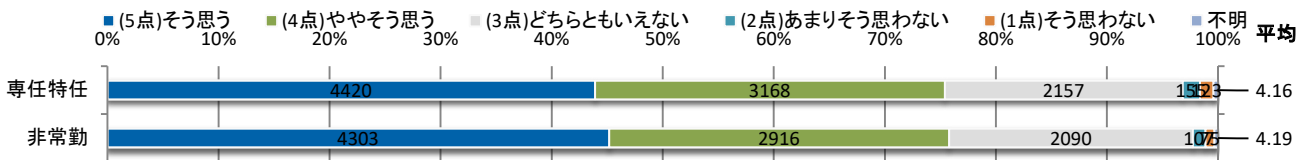


■ 科目区分別

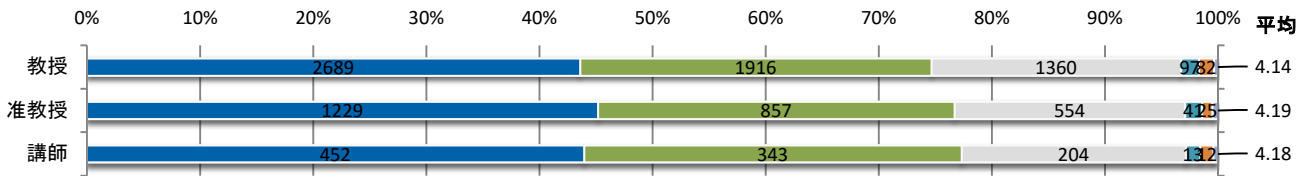


11. 授業はシラバスに沿って進められていますか？

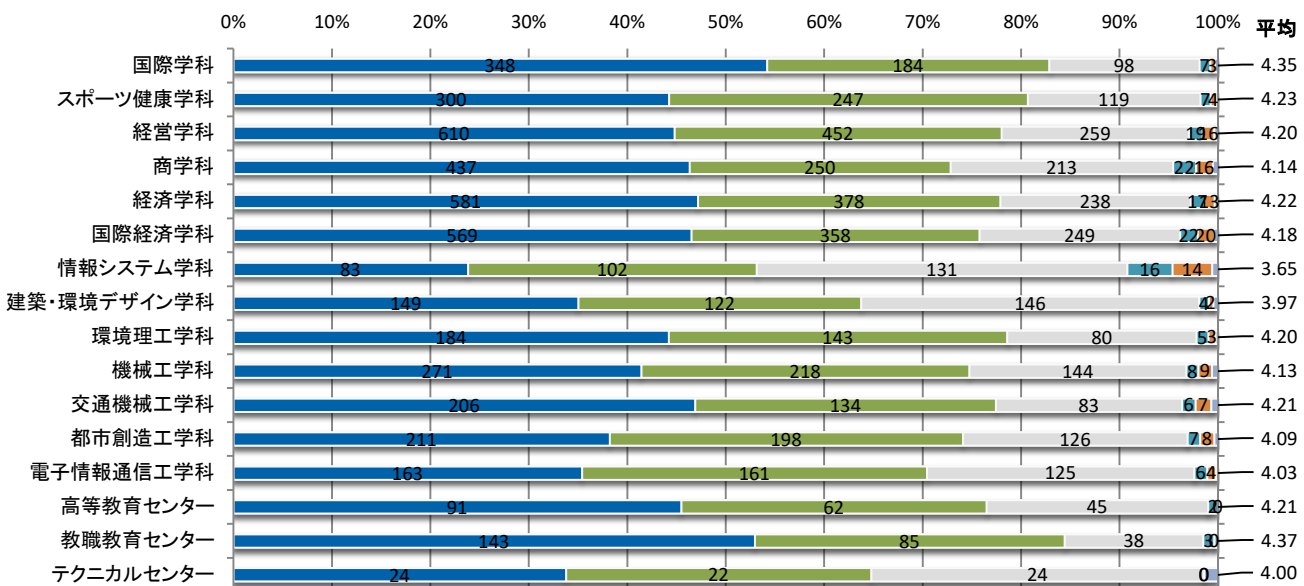
■ 教員雇用形態別



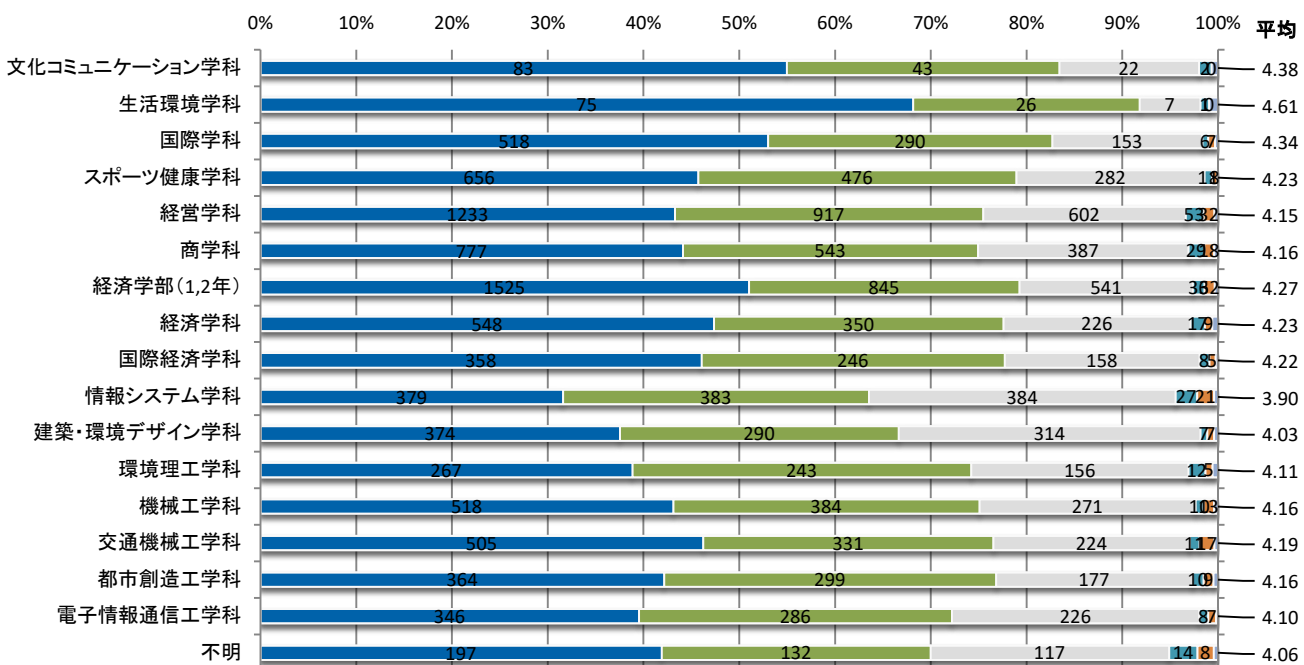
■ 専任教員職責別



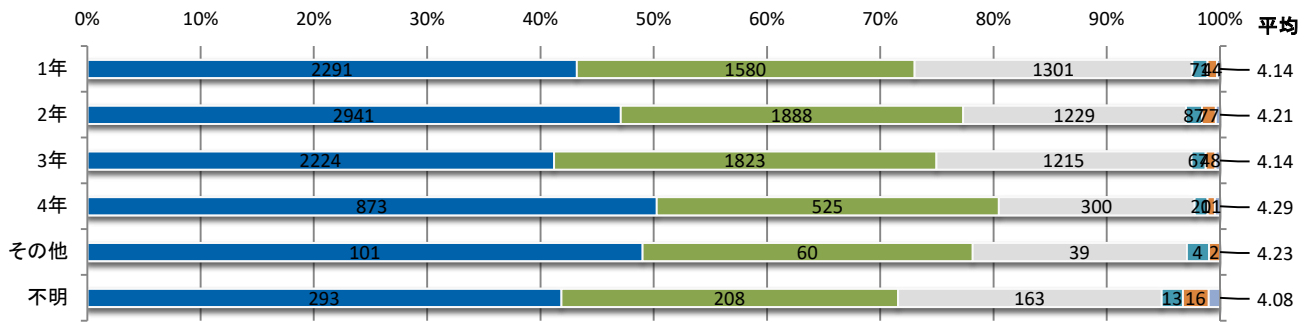
■ 専任教員所属学科別



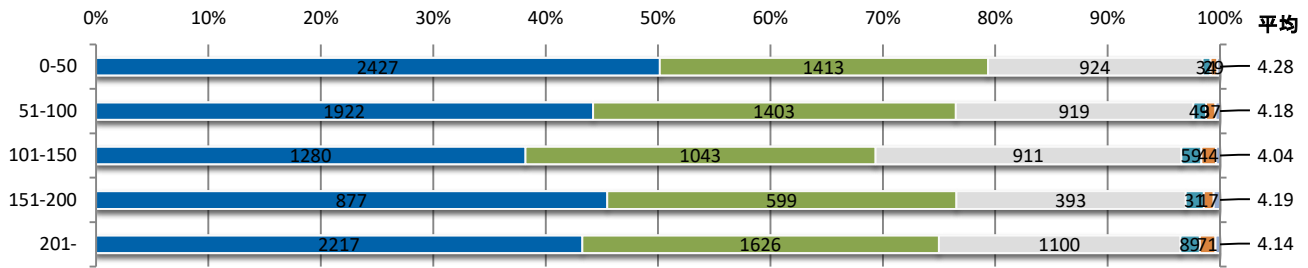
■ 学生所属学科別



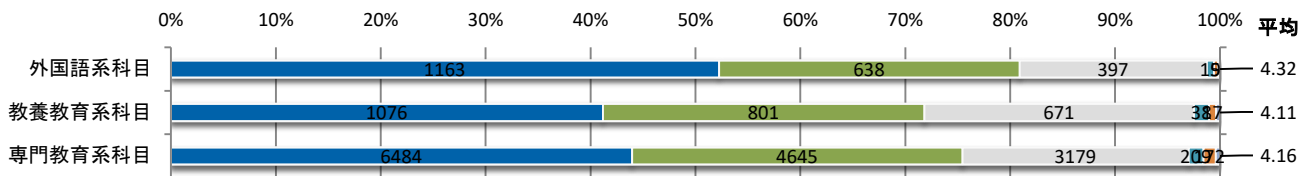
■ 学年別



■ 履修者数別

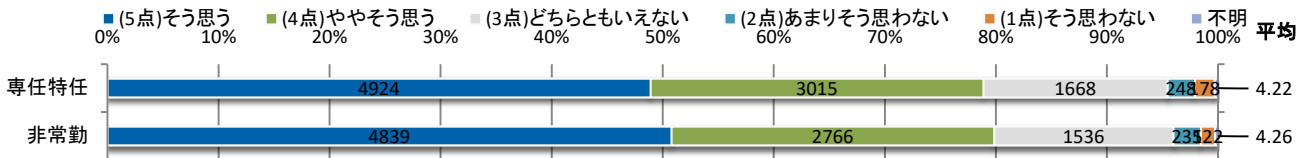


■ 科目区分別

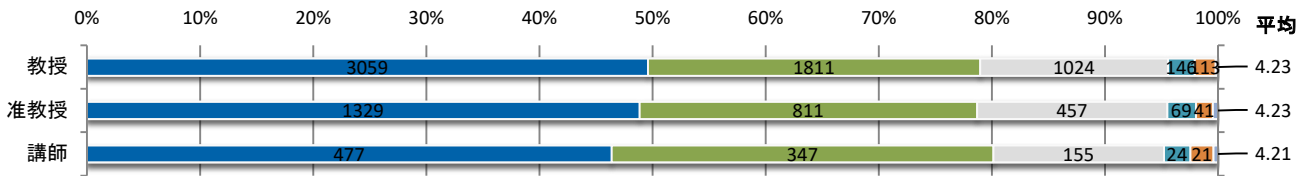


12. この授業の成績評価の方法や基準が明らかにされていますか？

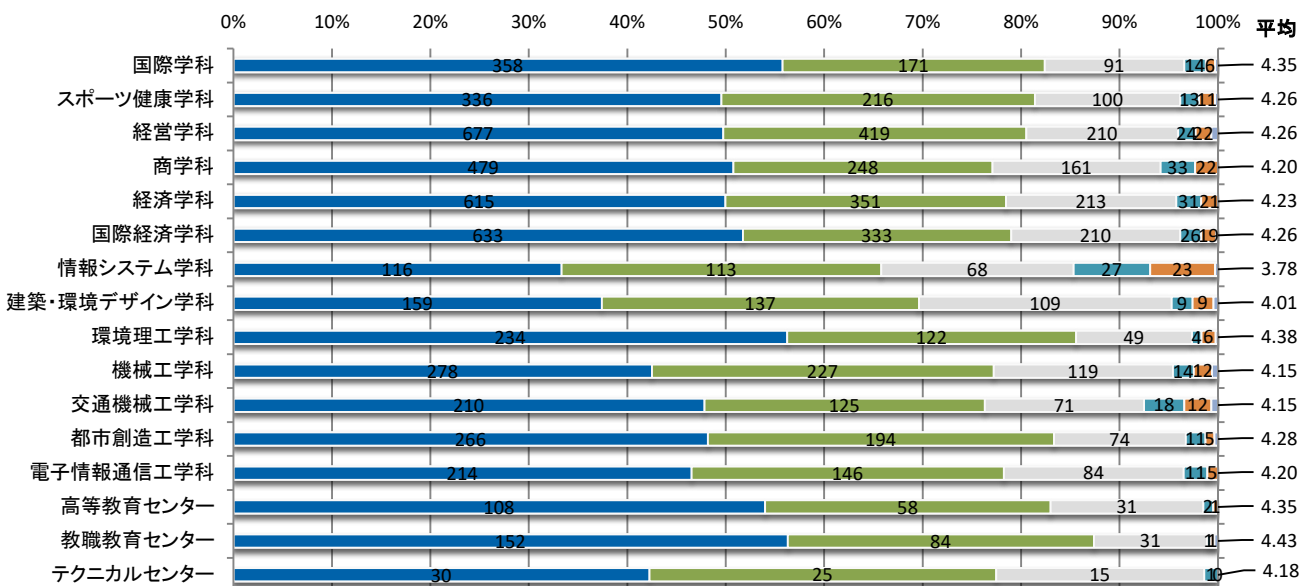
■ 教員雇用形態別



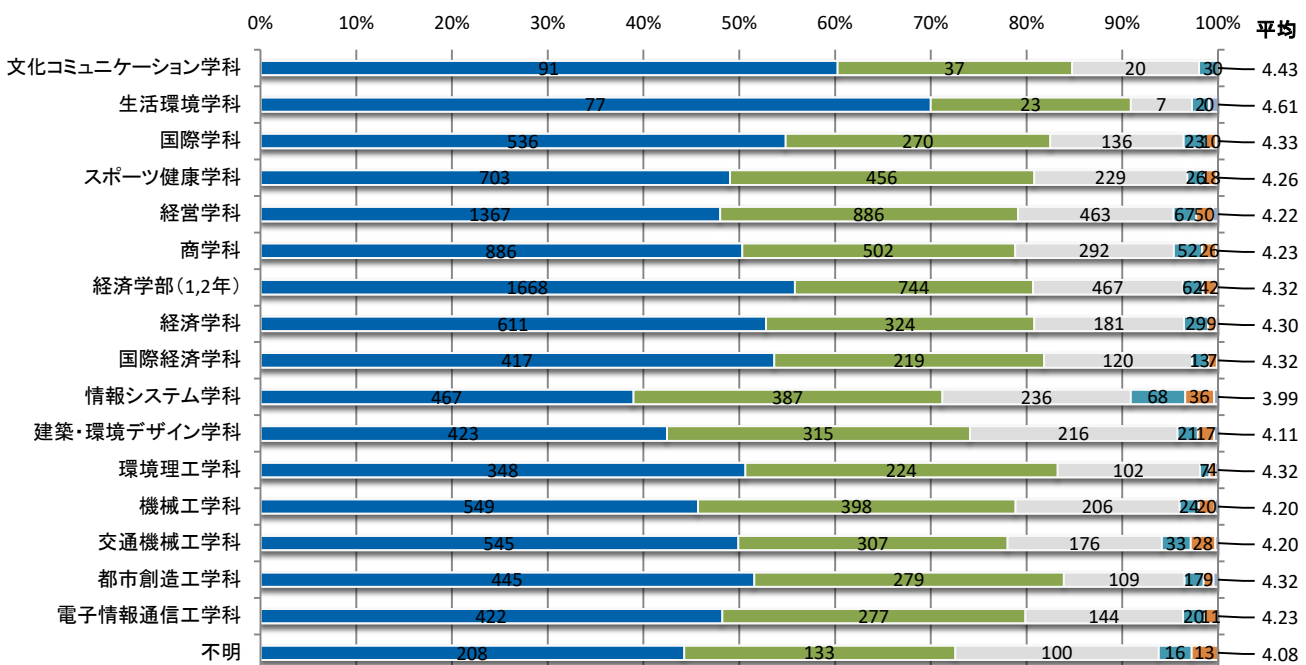
■ 専任教員職責別



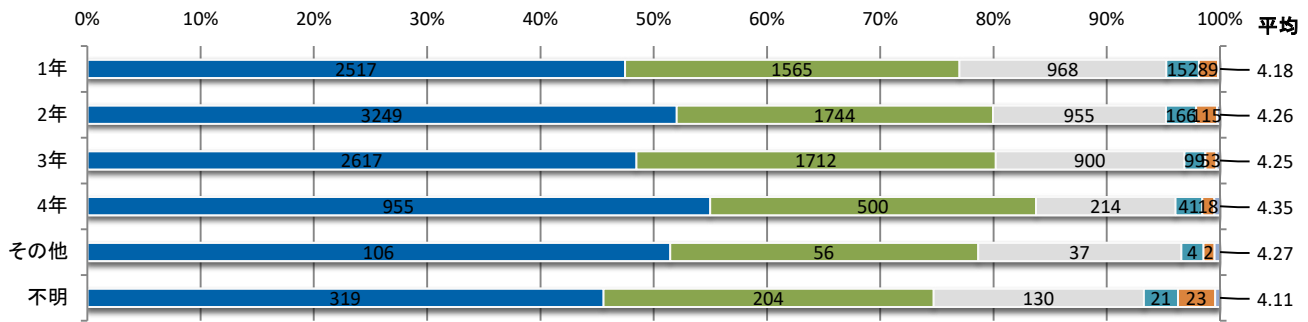
■ 専任教員所属学科別



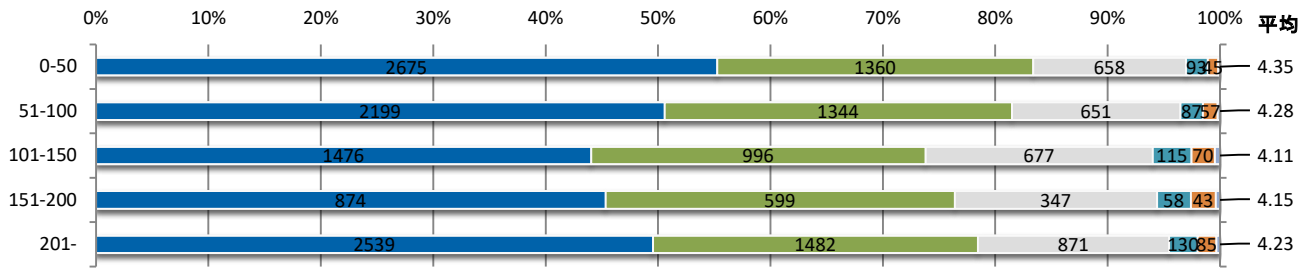
■ 学生所属学科別



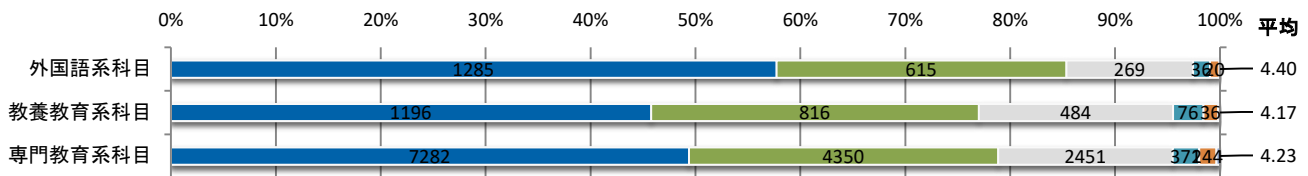
■ 学年別



■ 履修者数別

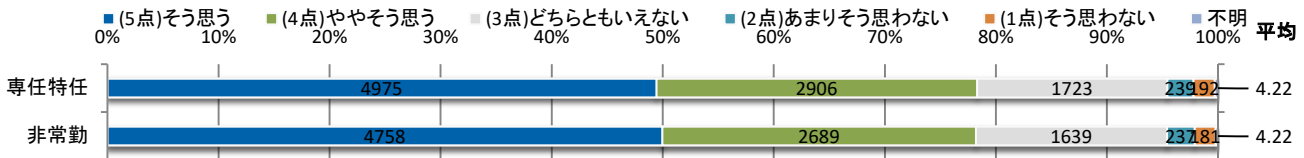


■ 科目区分別

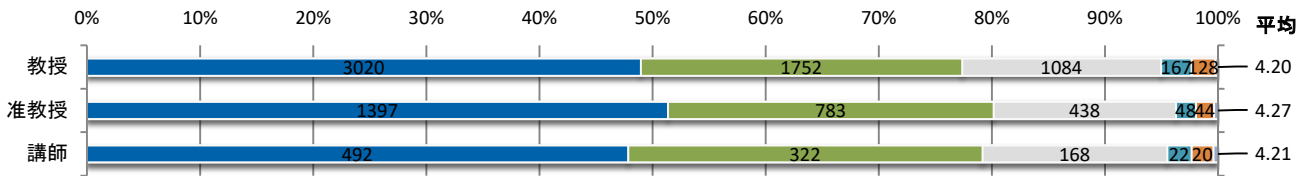


13. この授業にとってこの教室の設備や器具などは十分ですか？

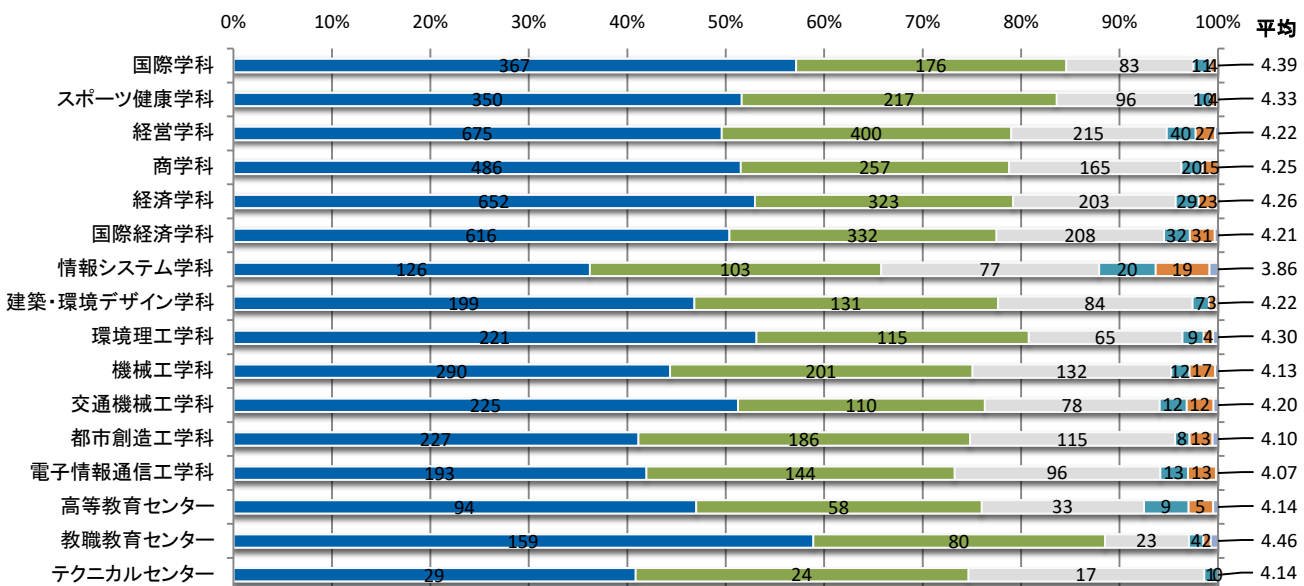
■教員雇用形態別



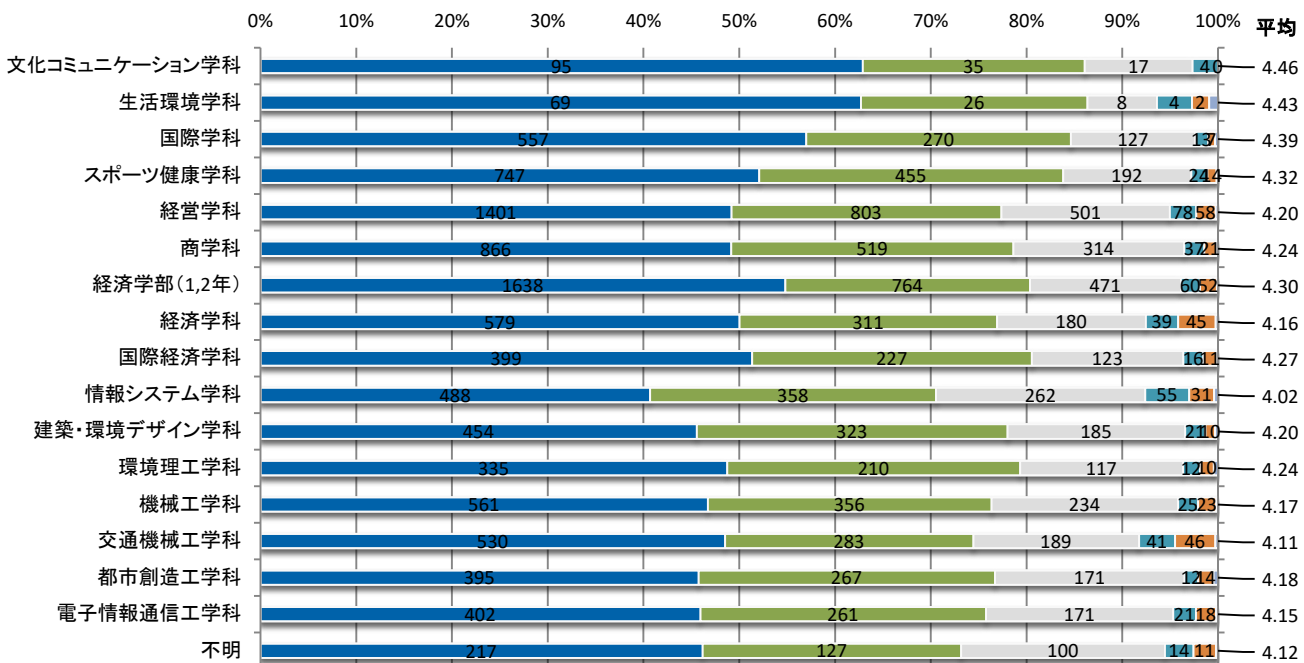
■専任教員職責別



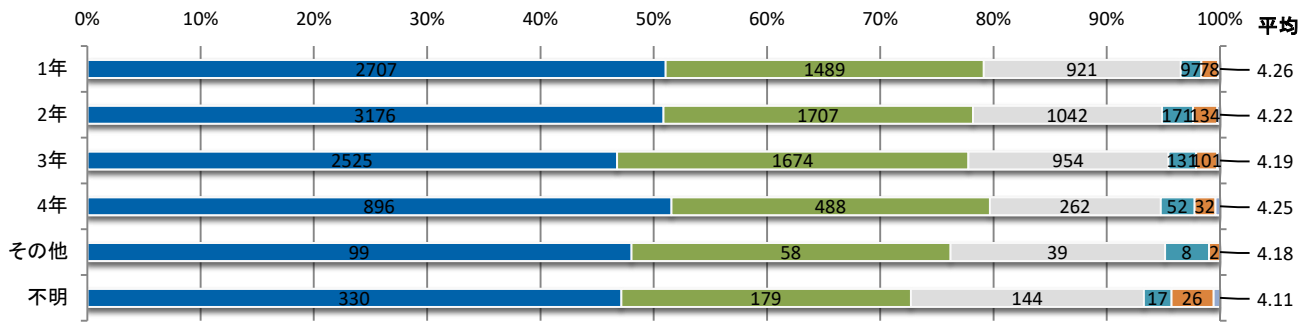
■専任教員所属学科別



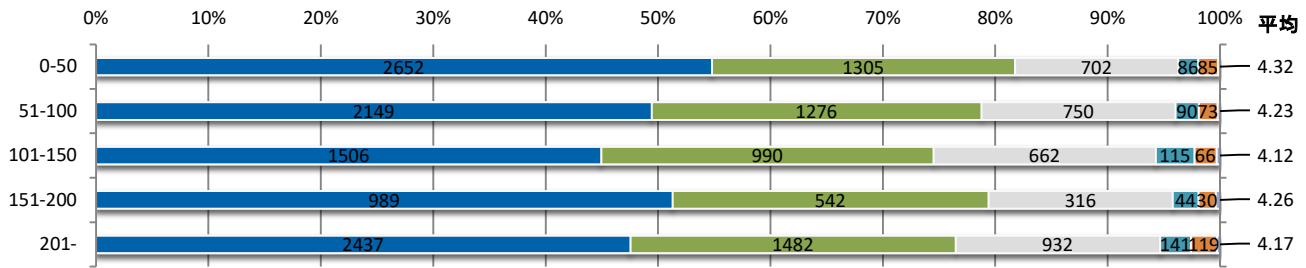
■学生所属学科別



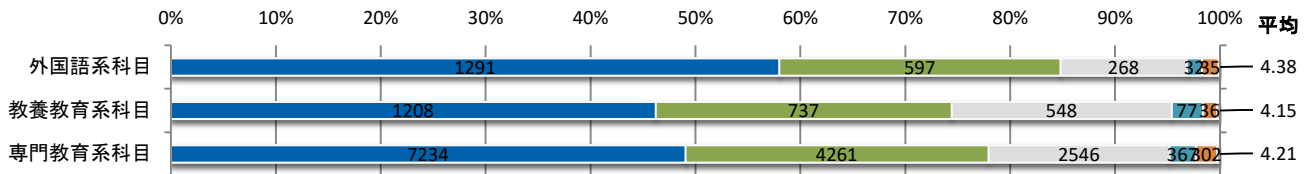
■ 学年別



■ 履修者数別

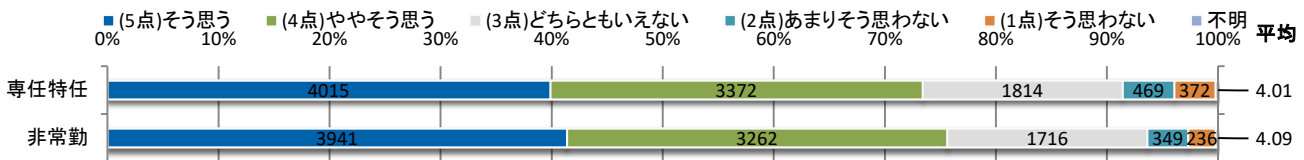


■ 科目区分別

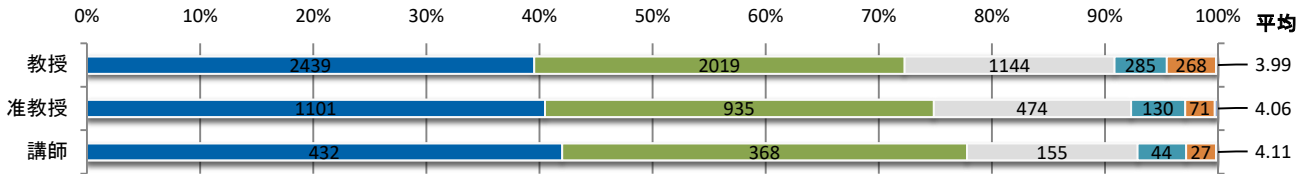


14. この授業は総合的に見て満足できる授業ですか？

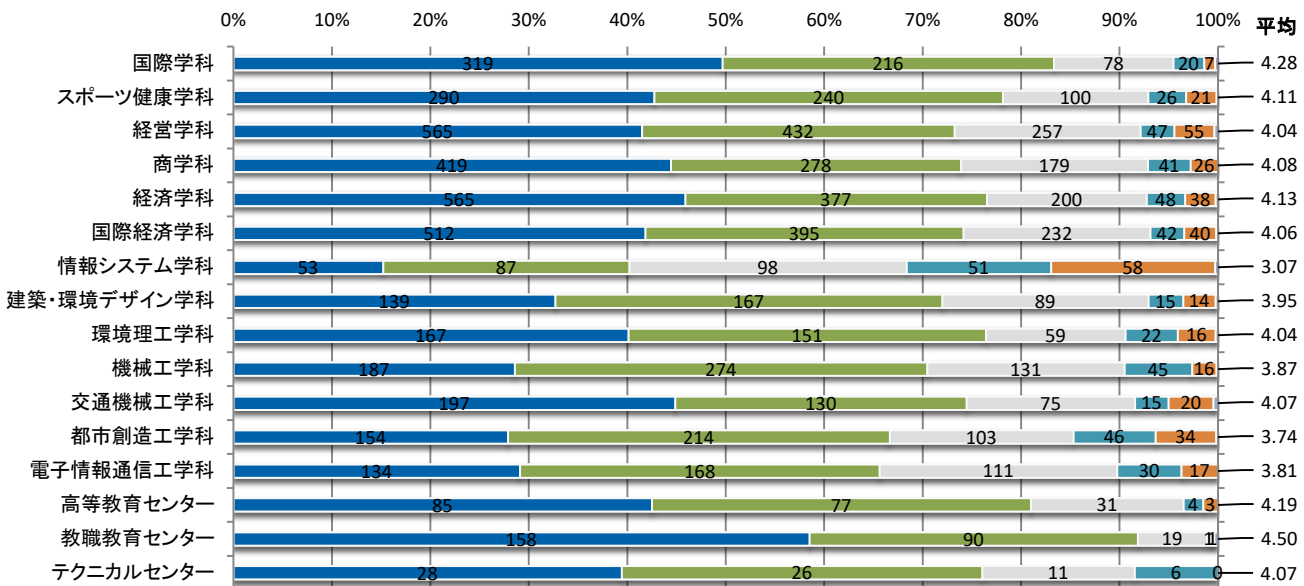
■教員雇用形態別



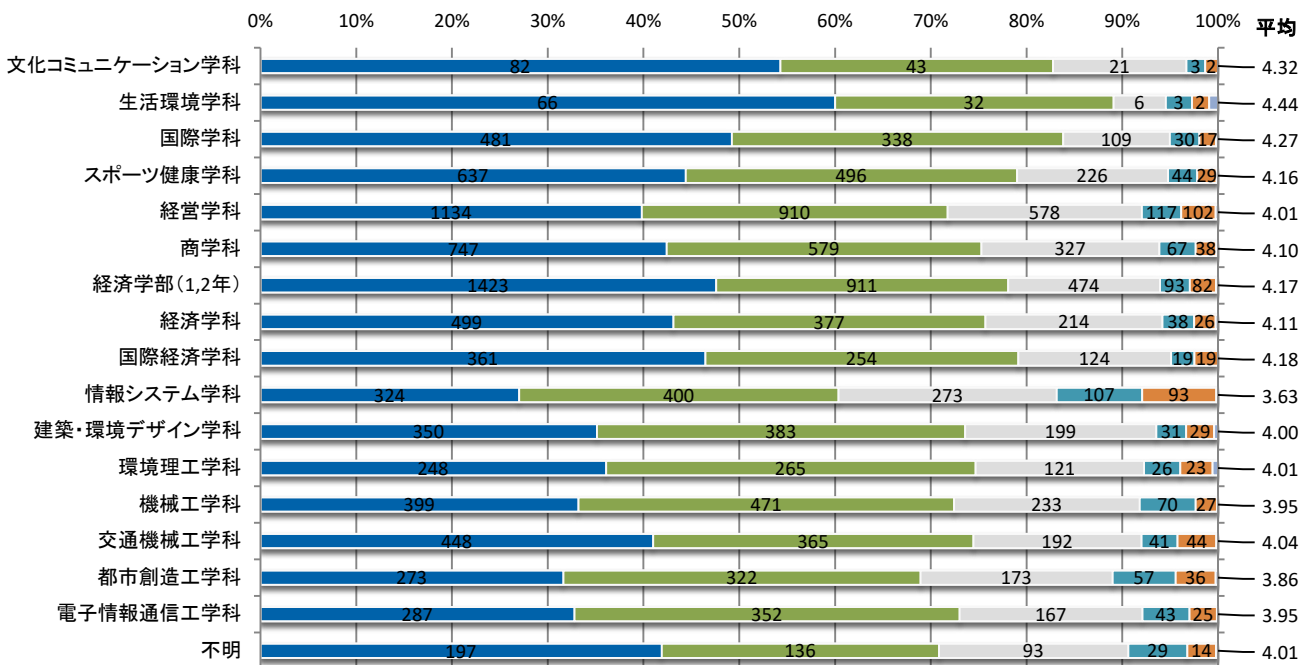
■専任教員職責別



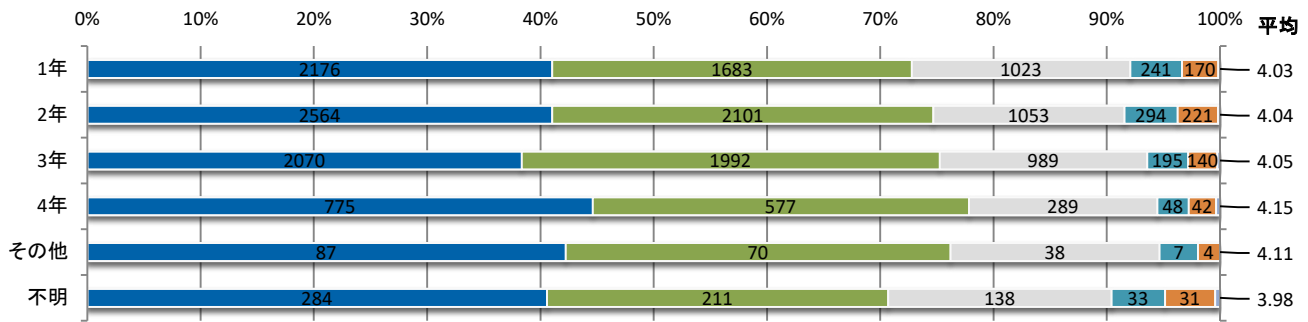
■専任教員所属学科別



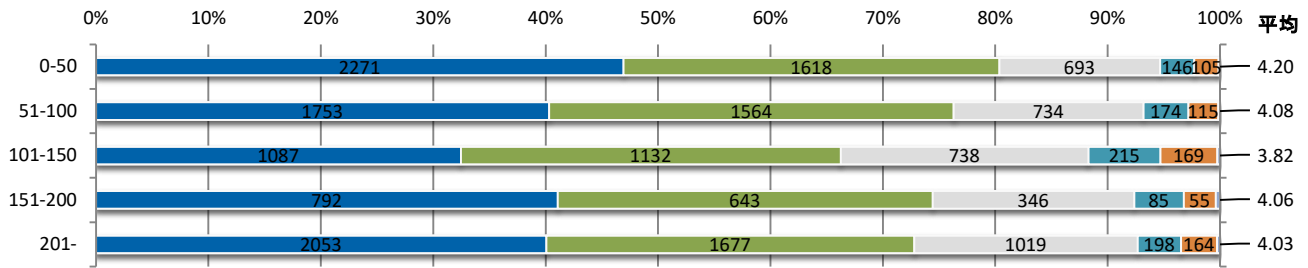
■学生所属学科別



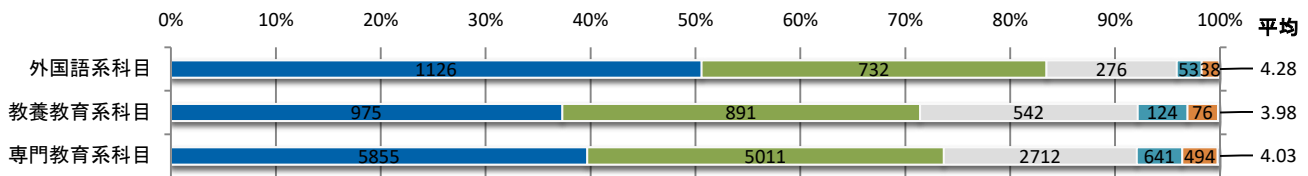
■ 学年別



■ 履修者数別



■ 科目区分別



授業改善アンケート集計結果（経年比較）〔大学〕

1. 設問別

No	設 問 文	2018年 前期 平均値	2019年 前期 平均値
(1)	この授業によく出席していますか？	4.57	4.61
(2)	この授業に毎週平均どれくらい、予習復習や関連する内容についての自己学習を行っていますか？ 5:2時間以上 4:1～2時間未満 3:30分～1時間未満 2:30分未満 1:取り組んでいない	2.28	2.32
(3)	この授業中あなた自身は、私語や居眠りをせず集中して聞いていますか？	3.88	3.99
(4)	先生は、開始時刻と終了時刻を守っていますか？	4.38	4.45
(5)	先生は、学生とのコミュニケーションを取りながら授業をしていますか？	3.81	3.87
(6)	先生は、私語への注意など、授業を受けやすいように配慮していますか？	4.05	4.11
(7)	先生の説明は聞き取りやすいですか？	3.95	4.03
(8)	板書やプロジェクターの表示は見やすいですか？	3.92	4.00
(9)	この授業の速さは適切ですか？	3.53	3.47
(10)	テキストや配布資料は、内容の理解に効果的ですか？	3.90	3.98
(11)	授業はシラバス通りに沿って進められていますか？	4.05	4.17
(12)	この授業の成績評価の方法や基準が明らかにされていますか？	4.13	4.24
(13)	この授業にとってこの教室の設備や器具などは十分ですか？	4.12	4.22
(14)	この授業は総合的に見て満足できる授業ですか？	3.98	4.05

2. 実施科目数、実施率

	2018年 前期	2019年 前期
選定科目	471	448
実施科目	471	445
実施率	100.0%	99.3%

3. 回答率

	2018年 前期	2019年 前期
実施科目履修者数	36,513	36,054
回答者数	18,891	19,585
回答率	51.7%	54.3%